

(仮称) 四浦半島風力発電事業
環 境 影 響 評 価 準 備 書
補 足 説 明 資 料

令和 7 年 1 月

電 源 開 発 株 式 会 社

風力部会 補足説明資料 目次

1. 道路の改変について（近藤顧問）【準備書 p. 13】	1
2. 排水方向について（水鳥顧問）【準備書 p. 18】	1
3. 工事用資材等の搬出入について（近藤顧問）【準備書 p. 24】	7
4. 工事中の排水について（水鳥顧問）【準備書 p. 27】	7
5. 気象の状況について（近藤顧問）【準備書 p. 43】	8
6. 大気質の状況について（近藤顧問）【準備書 p. 47】	9
7. 水象の状況について（岩田顧問）【準備書 p. 57】	11
8. 水道水源について（岩田顧問）【準備書 p. 116】	13
9. 住宅の配置の概況について（近藤顧問）【準備書 p. 123】	16
10. 大気環境について（近藤顧問）【準備書 p. 258】	18
11. 陸産貝類に対する環境影響評価について（河村顧問）【準備書 p. 273】	18
12. 魚類・底生動物に係る専門家等への意見聴取の内容について（岩田顧問）【準備書 p. 274】	18
13. 建設機械の稼働に係る窒素酸化物の予測地点について（近藤顧問）【準備書 p. 281, 285】	19
14. 地上気象の観測について（近藤顧問）【準備書 p. 282】	19
15. 大気質の調査・予測地点について（近藤顧問）【準備書 p. 285】	19
16. 風況観測塔について（近藤顧問）【準備書 p. 305, 306】	21
17. 風車の影に係る指針値について（近藤顧問）【準備書 p. 317】	23
18. 植生調査手法について（鈴木顧問）【準備書 p. 335】	23
19. 風速階級別風向出現頻度について（近藤顧問）【準備書 p. 360～】	23
20. 建設機械の稼働に係る窒素酸化物の予測手法について（近藤顧問）【準備書 p. 406】	24
21. 粉じん等（降下ばいじん）の調査結果について（近藤顧問）【準備書 p. 418】	24
22. 粉じん等（降下ばいじん）の調査結果について（近藤顧問）【p. 419】	24
23. 建設機械の稼働に係る降下ばいじん量の予測手法について（近藤顧問）【準備書 p. 429】	26
24. 浮遊物質量の調査結果について（水鳥顧問）【準備書 p. 612】	26
25. 浮遊物質量の調査結果について（中村顧問）【準備書 p. 613】	27
26. 沈砂池計画位置図について（水鳥顧問）【準備書 p. 625, 626】	27
27. 水質（浮遊物質量）の予測手法について（平口顧問）【準備書 p. 633】	35
28. 予測地点に流入する浮遊物質濃度の算出結果について（中村顧問）【準備書 p. 635】	38
29. 風車の影のかかる時間の予測結果について（阿部顧問）【準備書 p. 651】	39

30. 風車の影に係る評価結果について（近藤顧問）【準備書 p. 664】	39
31. 風車の影による影響の実態把握について（阿部顧問）【準備書 p. 664, 1232】	39
32. 鳥類のブレードへの接触に係る影響予測について（阿部顧問）【準備書 p. 860, 863, 867, 873, 879, 883, 901】	40
33. 鳥類のブレードへの接触に係る影響予測について（阿部顧問）【準備書 p. 1040】	40
34. クマタカの営巣、採食適地の解析について（阿部顧問）【準備書 p. 1045】	42
35. ハヤブサの営巣適地の解析について（阿部顧問）【準備書 p. 1075】	42
36. 典型性注目種の選定について（阿部顧問）【準備書 p. 1085】	44
37. アナグマの餌量調査について（阿部顧問）【準備書 p. 1093】	45
38. バットストライク・バードストライクに関する事後調査について（阿部顧問）【準備書 p. 1233～1244】	46

1. 道路の改変について（近藤顧問）【準備書 p. 13】

＜ご意見＞

道路部分の対象事業実施区域には改変部分はないという理解でよいですか。

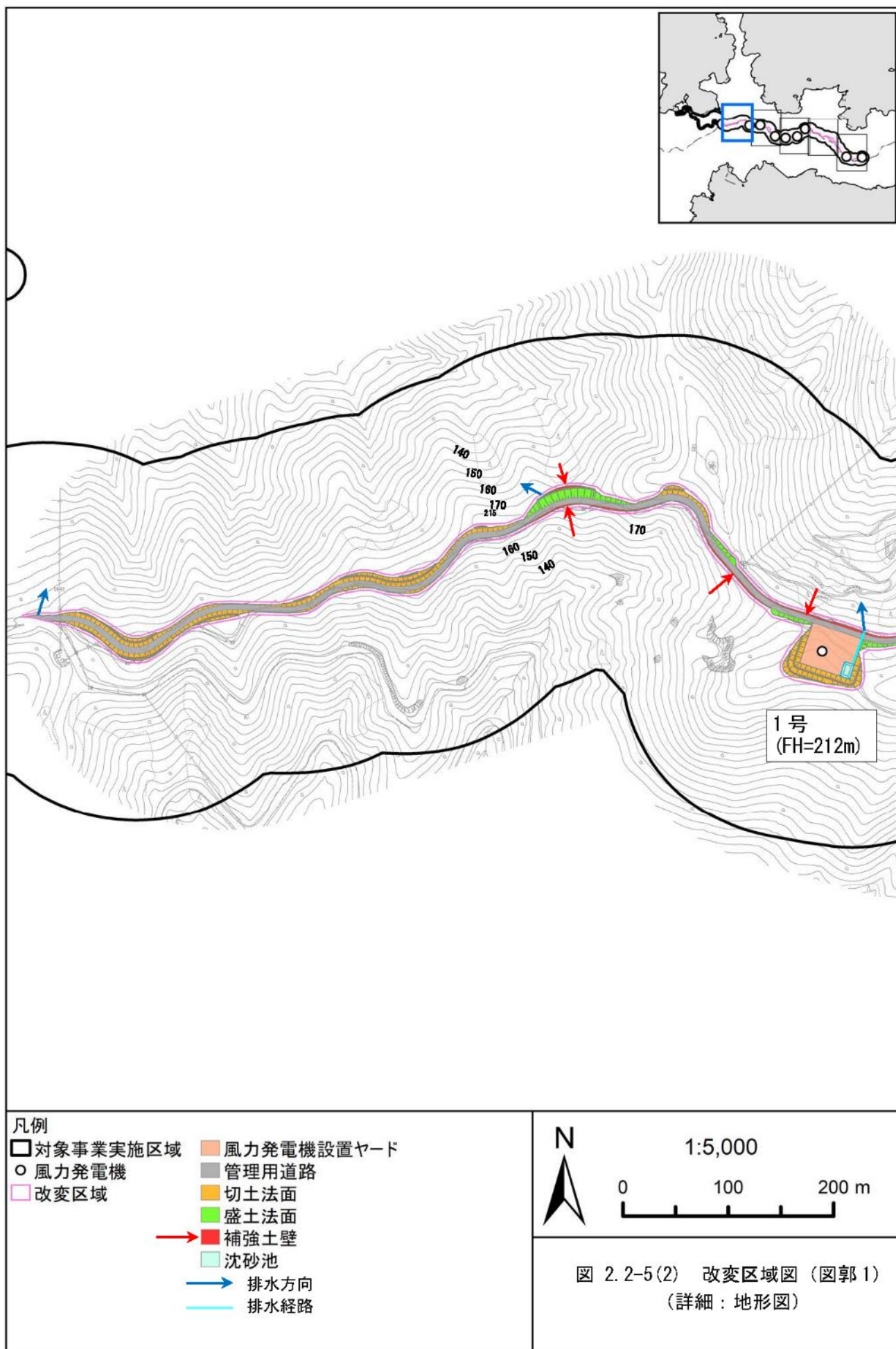
既存の国道、県道、市道については、大型車の走行に支障がある枝の刈り払いを行います、樹木を伐採する予定はありません。

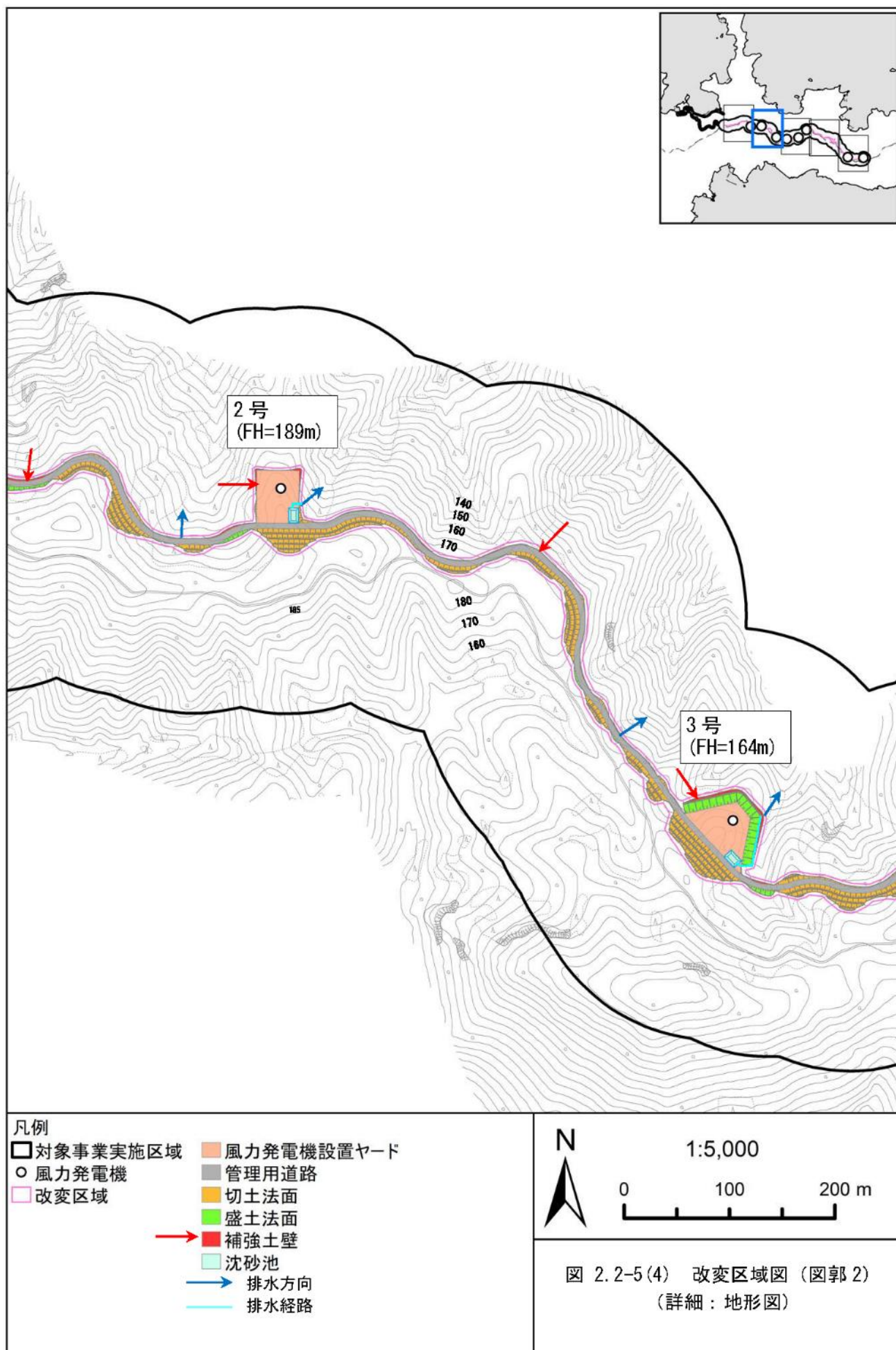
2. 排水方向について（水鳥顧問）【準備書 p. 18】

＜ご意見＞

5号機設置ヤードに設けられた沈砂池近くに排水方向を示す矢印がなく、排水先がどこがよく分かりません。できれば、他の風車発電機設置ヤードを含めて、沈砂池から排水先までの排水路を示してください。

評価書では次ページ（本資料 p. 2～6）に示すとおり、沈砂池からの排水経路を示します。





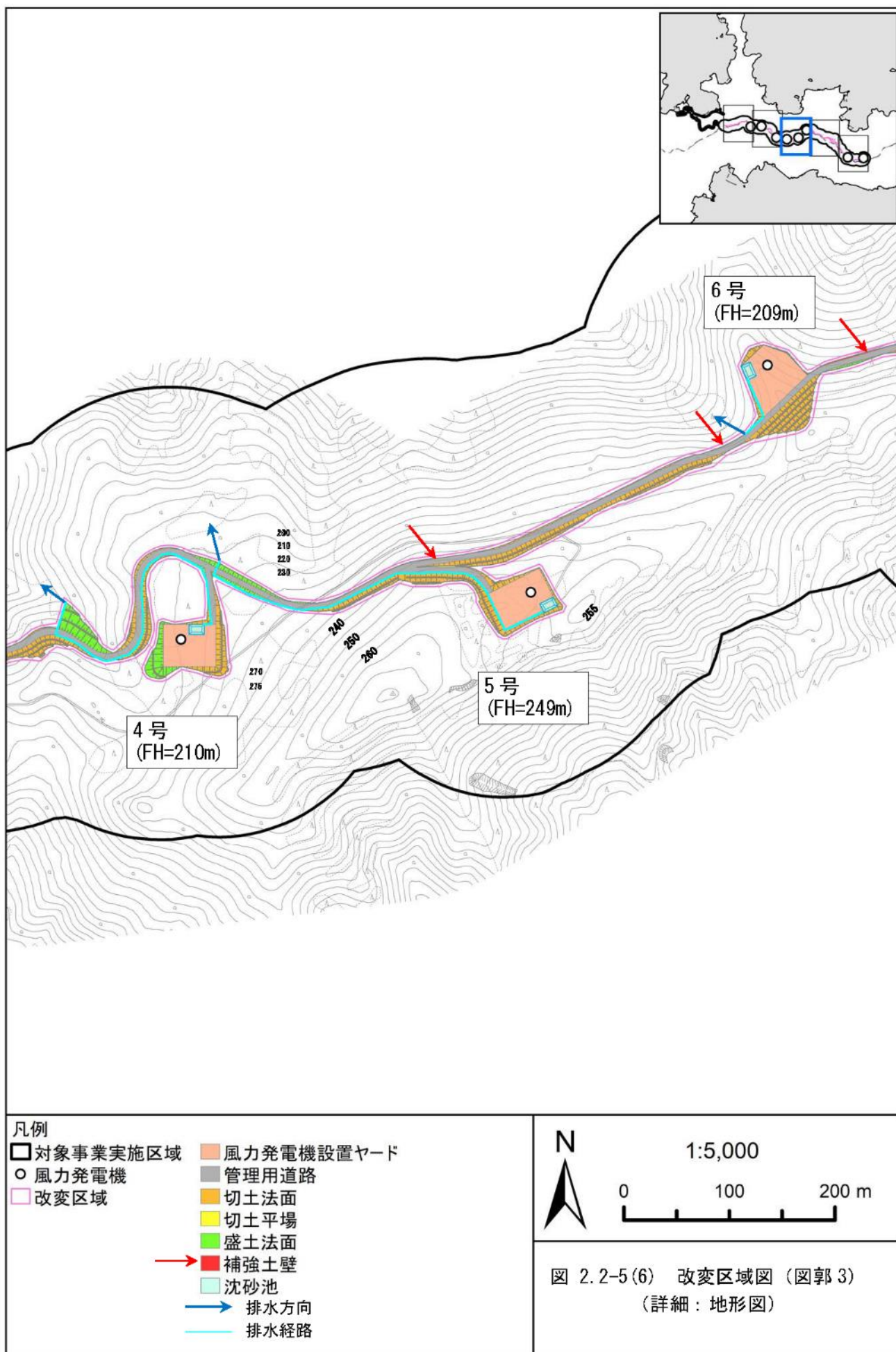
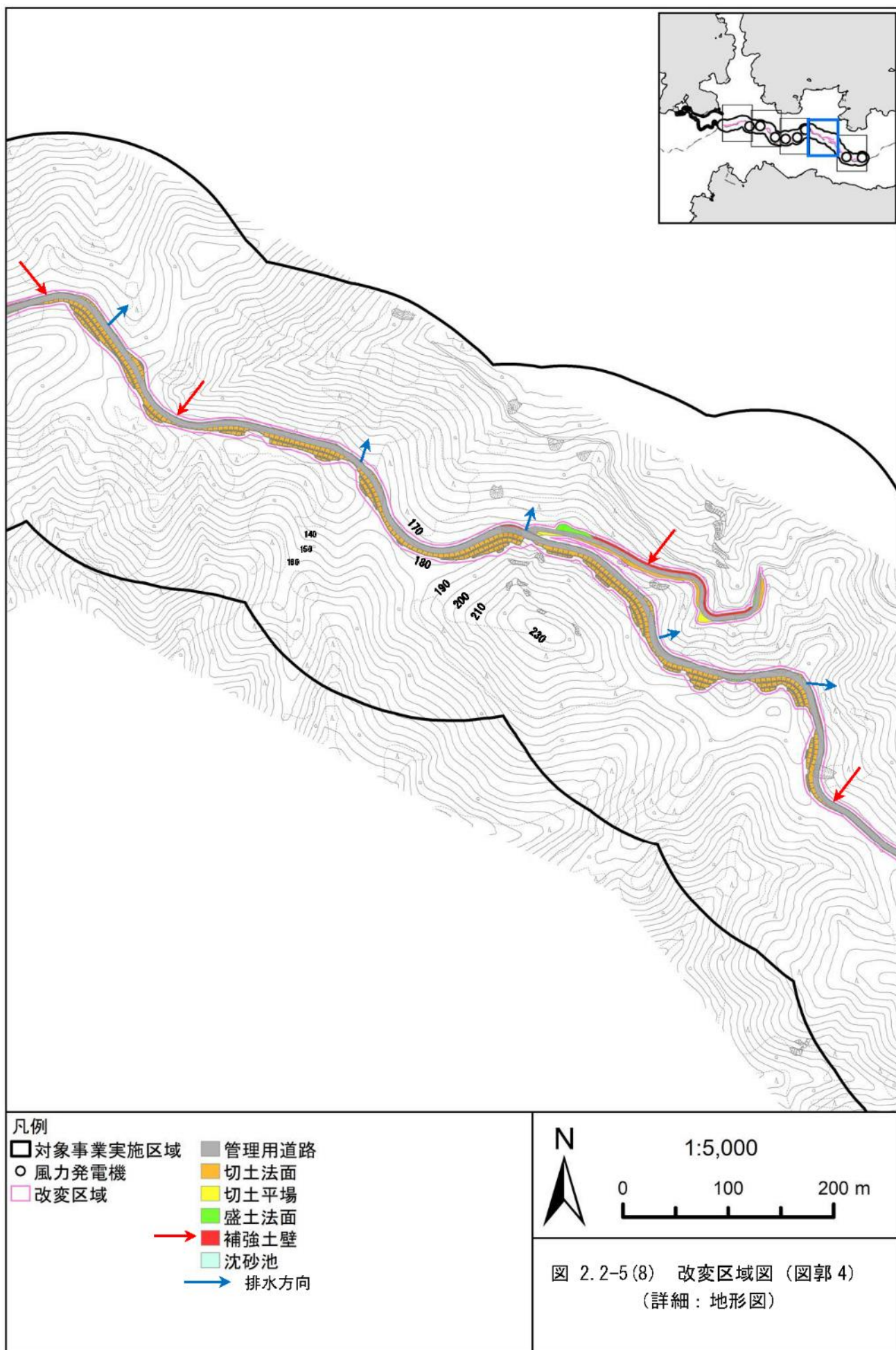
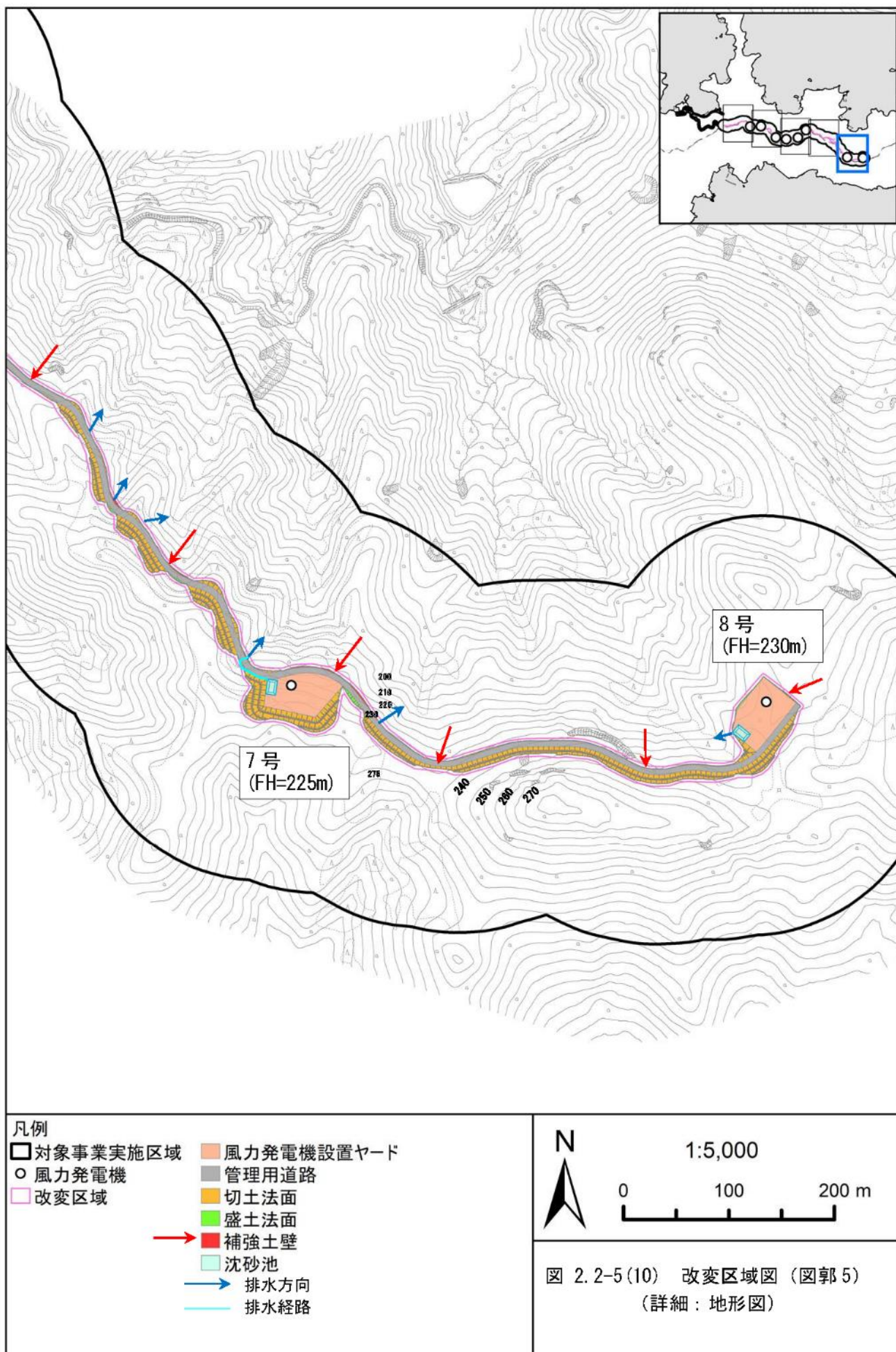


図 2.2-5(6) 変更区域図 (図郭 3)
(詳細: 地形図)





3. 工事用資材等の搬出入について（近藤顧問）【準備書 p. 24】

<ご意見>

残土の場外搬出に必要な交通量は表 2. 2-4 の大型車最大交通量を上回ることはいないですか。

残土の場外搬出は、コンクリート打設時には行わず、また走行台数が集中しないよう平準化するため、現在想定している大型車の最大交通量は超えません。

4. 工事中の排水について（水鳥顧問）【準備書 p. 27】

<ご意見>

風車発電機設置ヤードだけでなく、道路工事区域などの雨水排水対策についても、説明・記載してください。

評価書では整備する道路に関する雨水排水対策として、「管理用道路の雨水排水については、「林地開発許可制度の手引き」（令和 6 年 4 月、大分県）に基づき排水施設を検討し、素掘側溝から横断排水溝を通し、洗掘防止のためフィルター材（フトンカゴ等）を介して山地の谷部や斜面に放流する計画である。」を追記します。

5. 気象の状況について（近藤顧問）【準備書 p. 43】

<ご意見>

表 3.1-2 で最高気温の平均、最低気温の平均とあるのはそれぞれ日最高気温、日最低気温の平均ではないでしょうか。月最高気温等の場合もあります。

ご指摘のとおり、最高気温の平均、最低気温の平均は、日最高気温の平均、日最低気温の平均です。評価書において、以下のように修正いたします。

表-3.1-2 □佐伯地域気象観測所における地上気象観測結果
(平年値:平成3(1991)年～令和2(2020)年)

要素名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温 (℃)	16.7	6.7	7.5	10.5	15.1	19.3	22.4	26.3	27.3	24.1	19.1	13.9	8.7
日最高気温 の平均(℃)	20.9	11.0	11.7	14.9	19.7	23.7	26.1	30.1	31.3	27.9	23.2	18.2	13.2
日最低気温 の平均(℃)	12.9	2.5	3.2	6.1	10.4	15.0	19.2	23.2	24.0	20.9	15.3	9.7	4.5
平均風速 (m/s)	1.9	1.9	2.0	2.1	2.1	1.9	1.5	1.7	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9
最多風向	南南西	南南西	南南西	南南西	南	南	南	南	南	南西	南南西	南南西	南南西
日照時間 (時間)	2026.2	156.0	149.6	170.5	186.8	191.9	134.4	191.4	207.9	159.3	170.0	152.3	156.1
降水量 の合計 (mm)	2118.9	62.3	70.9	116.2	136.8	178.8	333.3	282.7	247.2	338.6	200.6	104.1	60.1

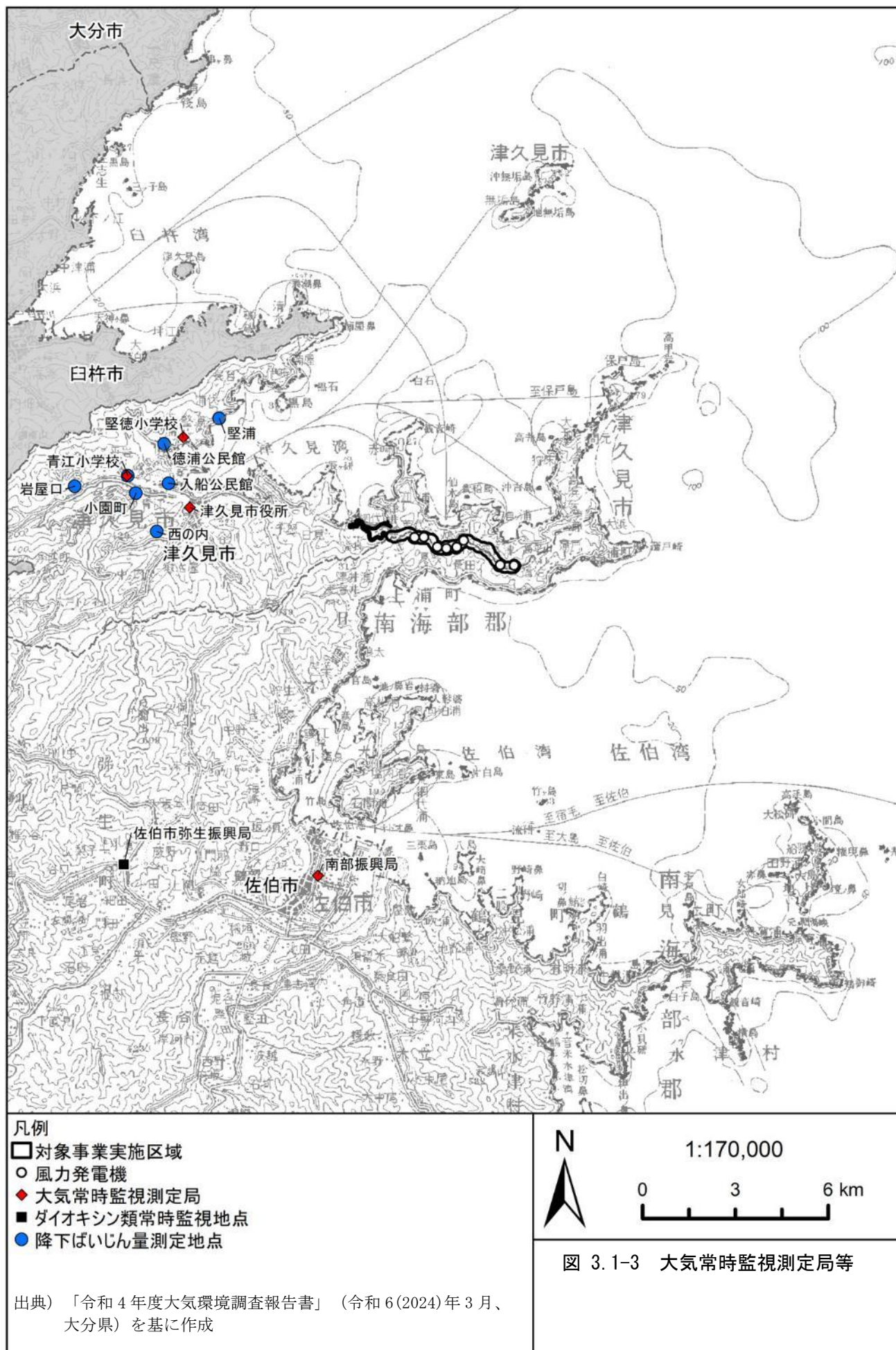
出典)「過去の気象データ検索」(気象庁 HP、<https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php>) 令和6(2024)年5月確認

6. 大気質の状況について（近藤顧問）【準備書 p. 47】

<ご意見>

降下ばいじんの測定位置も図に示してください。

評価書では次ページ（本資料 p. 10）に示すとおり、降下ばいじんの測定地点も図示いたします。

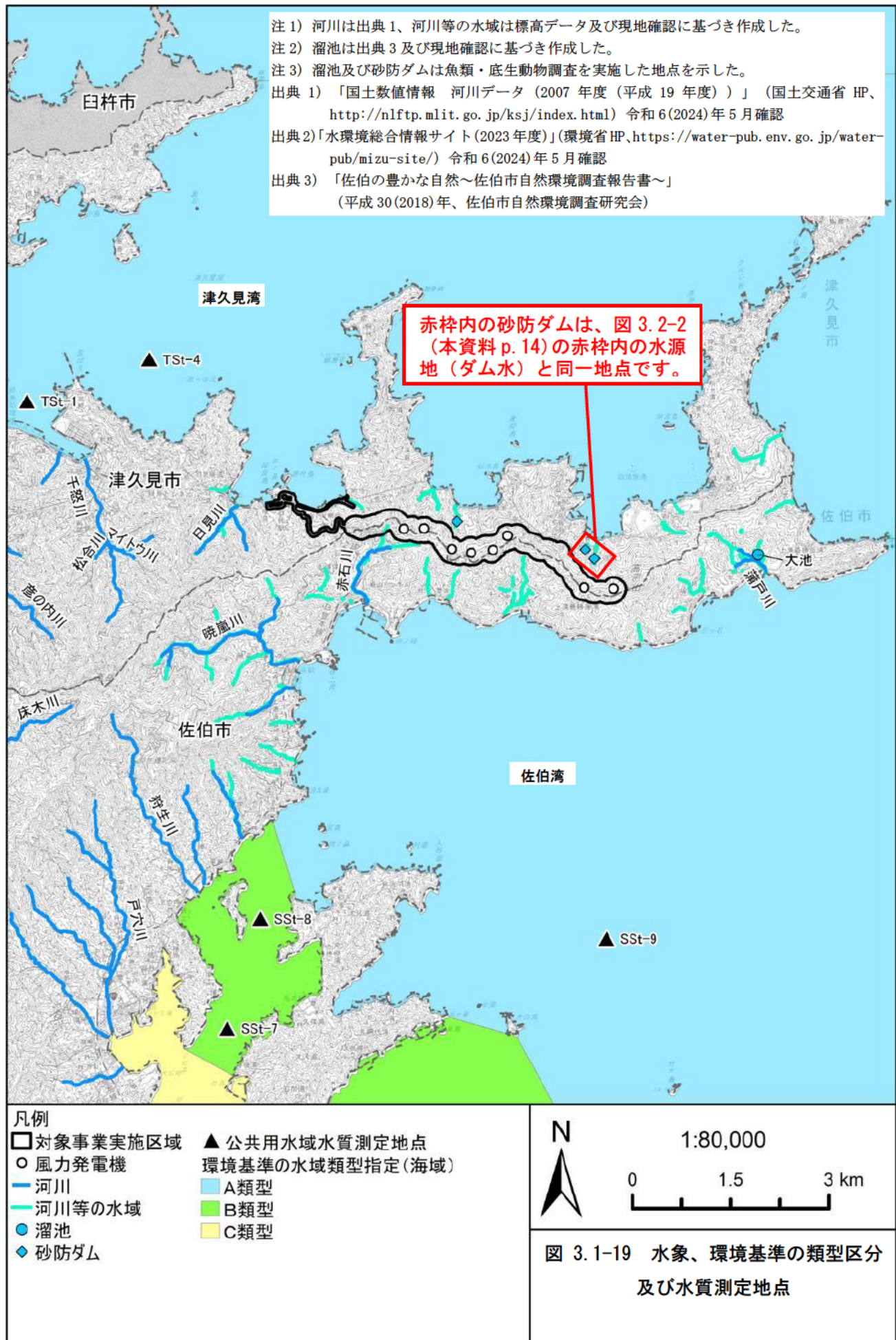


7. 水象の状況について（岩田顧問）【準備書 p. 57】

<ご意見>

専門家意見の池（P. 274）、「図 8.3-10 水質調査地点」に示された河川等の水域、魚類・底生動物の調査地点の砂防ダムや溜池（P. 323）等についても、説明、図示することを御検討下さい。

評価書では次ページ（本資料 p. 12）に示すとおり、魚類・底生動物の専門家等に言及いただいた「大池」、魚類・底生動物調査地点に設定した「大池」及び砂防ダム、河川等の水域を図示いたします。また水象の状況として、「佐伯市蒲戸地区においては、海岸近くに大きな池や湿地（以下、蒲戸地区内で一番大きな池を「大池」と仮称する。）が存在する」旨を追記いたします。



8. 水道水源について（岩田顧問）【準備書 p. 116】

<ご意見>

「図 3.2-2 水道及び水源の状況」の水源地について水源種別（表流水、井戸等）を示すことを御検討下さい。

評価書では次ページ（本資料 p. 14）に示すとおり、水源種別も図示いたします。

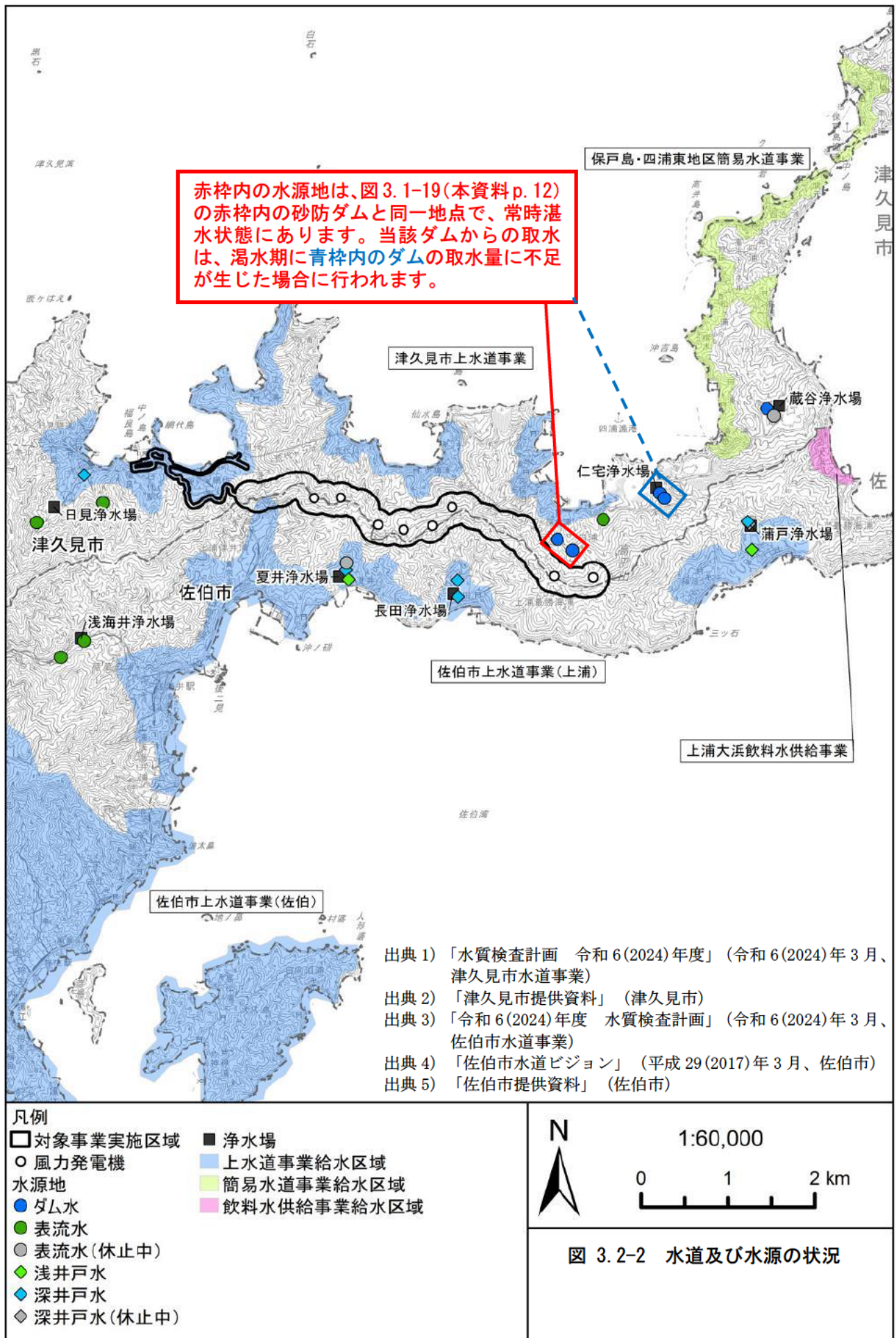
（二次意見）

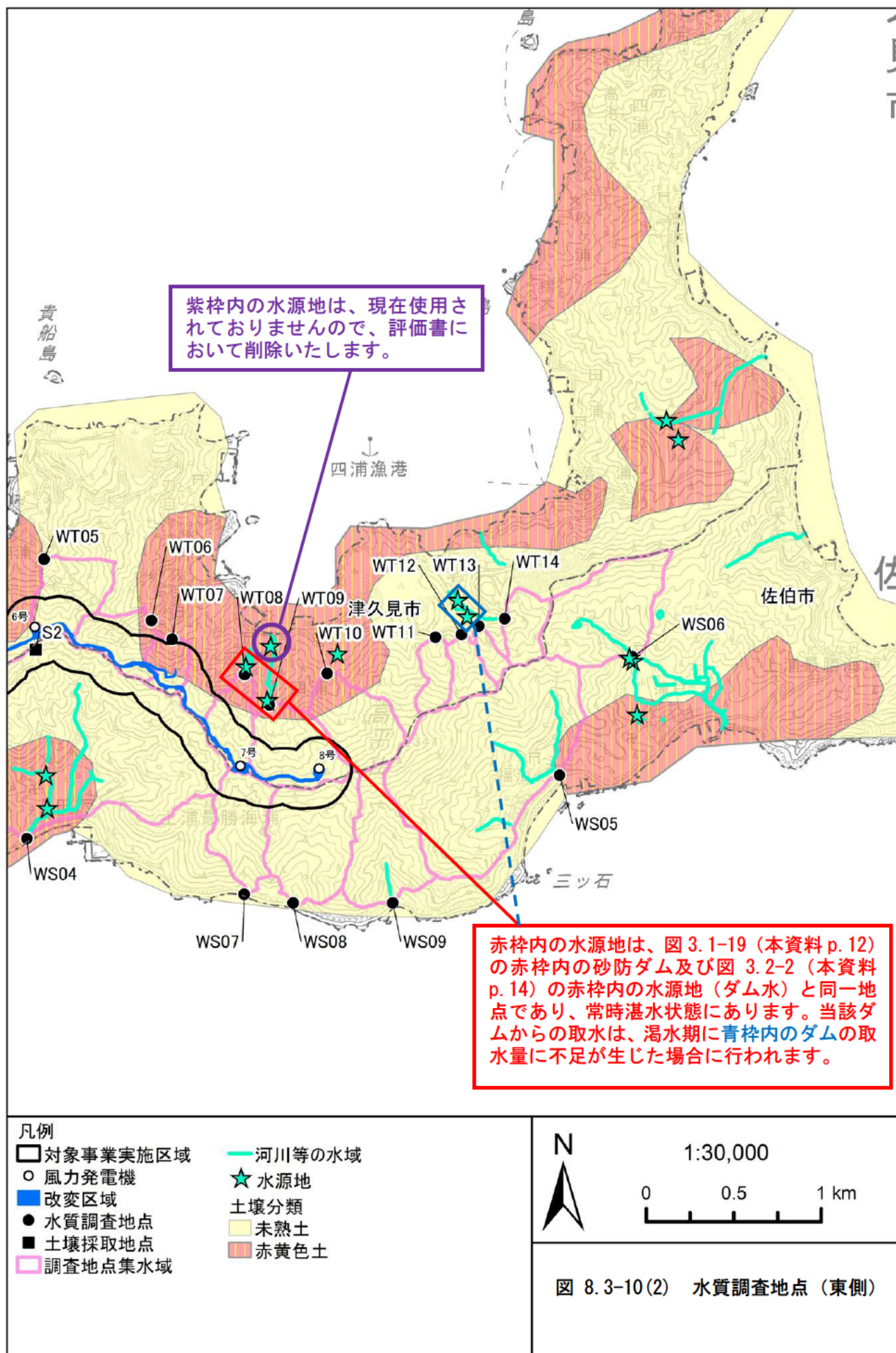
「図 3.1-19 水象、環境基準の類型区分及び水質測定地点」（補足説明資料 P. 12）における発電機 7 号北側の 2 ヶ所の砂防ダムと「図 3.2-2 水道及び水源の状況」（補足説明資料 P. 14）の水源地（ダム水）は同一地点でしょうか。同一地点の場合、砂防ダムで常時湛水、取水が行われているとの理解でよろしいでしょうか。また、「図 8.3-10（2）水質調査地点（東側）」（準備書 P. 314）によれば水質調査地点 WT09 の下流にも水源地がありませんか。

（二次回答）

図 3.1-19（本資料 p. 12）の赤枠内の砂防ダムと図 3.2-2（本資料 p. 14）の赤枠内の水源地（ダム水）は同一地点であり、当該 2 ヶ所のダムは常時湛水状態にあります。当該 2 ヶ所のダムからの取水は渇水期（通常 11 月～2 月後半）に、常時取水されている仁宅浄水場南側に位置する 2 か所（ダム水）（本資料 p. 14 の青枠内の水源地（ダム水））の取水量に不足が生じた場合に行われます※。 ※津久見市下水道課（2024 年 5 月 31 日）へのヒアリングによる

また、図 8.3-10（2）の WT09 下流の水源地（本資料 p. 15 の紫枠内の水源地）は、現在利用されていない水源地が図面に残っていたため、評価書において削除いたします。





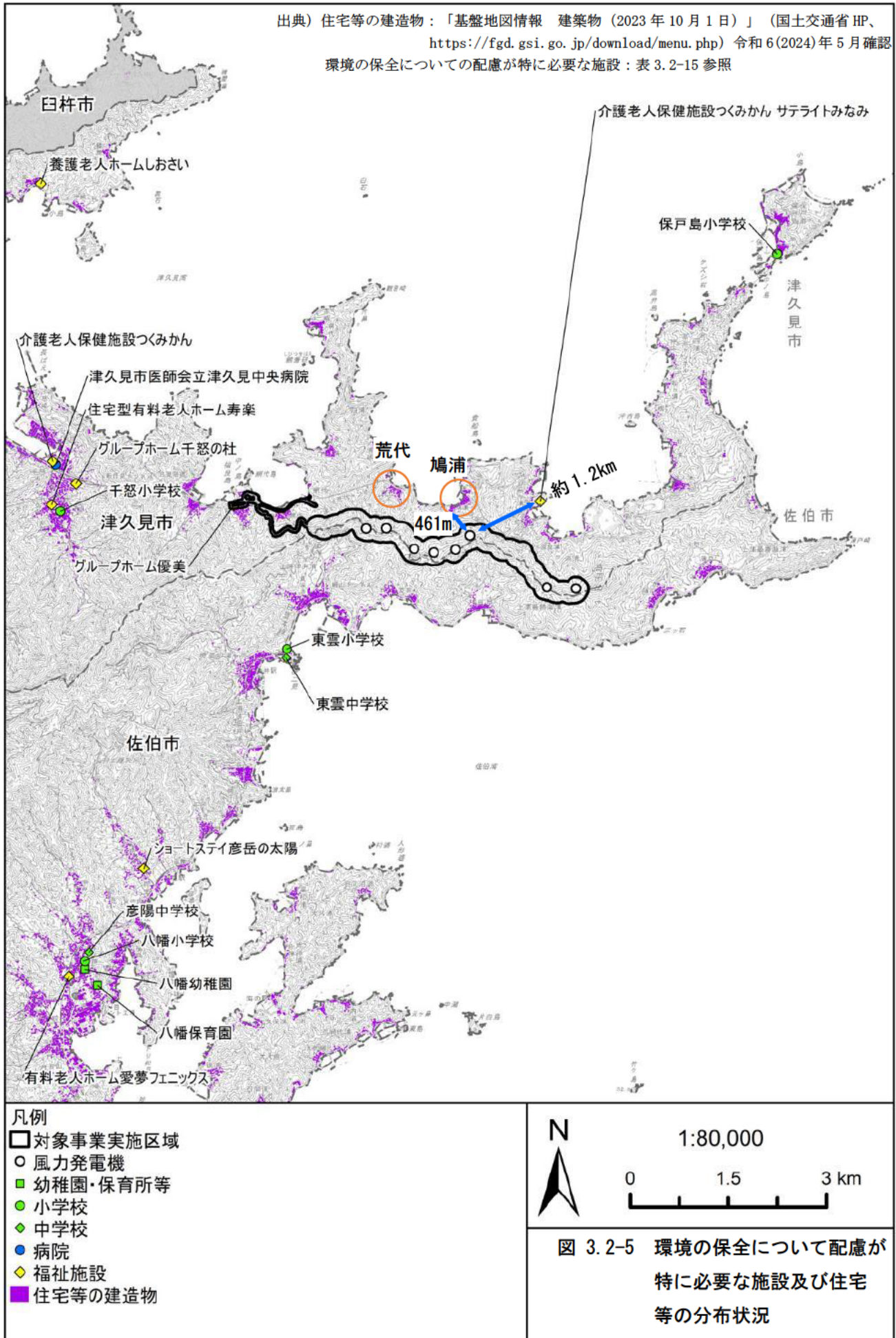
9. 住宅の配置の概況について（近藤顧問）【準備書 p. 123】

<ご意見>

風車から直近の民家までの距離を示してください。

風力発電機から最近接の住宅までの距離は、準備書 p. 645～647 に示すとおり 461m となります。評価書では次ページ（本資料 p. 17）に示すとおり、第 3 章においても図示いたします。

出典) 住宅等の建造物：「基盤地図情報 建築物 (2023 年 10 月 1 日)」(国土交通省 HP、
<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>) 令和 6(2024)年 5 月確認
 環境の保全についての配慮が特に必要な施設：表 3.2-15 参照



10. 大気環境について（近藤顧問）【準備書 p. 258】

＜ご意見＞

51 ページによれば令和 4 年度の津久見市役所測定局で環境基準が達成されていないのではないのでしょうか。

ご指摘のとおり、令和 4 年度の津久見市役所における浮遊粒子状物質の短期的評価で環境基準が達成されておりません。評価書においては、「浮遊粒子状物質を測定している測定局では津久見市役所測定局を除く地点で環境基準を達成している」という記載に修正します。

11. 陸産貝類に対する環境影響評価について（河村顧問）【準備書 p. 273】

＜ご意見＞

文献調査では対象実施区域周辺に陸産貝類の重要種が生息する可能性があったと思いますが、今回の環境影響評価の対象とはなっておらず、現地調査も行われていないのではないかと思います。これは専門家の意見等から、生息の可能性が低いと考えてのことかと思いますが、そのこと（評価対象にしなかった理由）はどこかに記載されていますでしょうか？記載がなければ、追記していただいた方がよろしいかと思います。ご検討ください。

陸産貝類の専門家への意見聴取結果は、準備書 p. 273 に示すとおりです。ご指摘のとおり、専門家等からのご意見も踏まえ、重要な陸産貝類が対象事業実施区域内に生息する可能性は低く、事業による影響が生じる可能性は低いと考えられることから、評価対象に選定しておりません。評価書では、p. 273 の「事業者の対応」に「事業による影響が生じる可能性は低いと考えられることから、環境影響評価項目として選定しないこととした」旨を追記いたします。

12. 魚類・底生動物に係る専門家等への意見聴取の内容について（岩田顧問）【準備書 p. 274】

＜ご意見＞

【誤記】アマゴ→アマモ

魚類・底生動物の専門家への意見聴取の内容を再度確認したところ、ご指摘のとおり「アマモ」の誤記でした。評価書において修正いたします。

1 3. 建設機械の稼働に係る窒素酸化物の予測地点について（近藤顧問）【準備書 p. 281, 285】

＜ご意見＞

図 8.3-4 には ET*, ES*等の E から始まる予測地点は記載されていません。

表 8.3-3(2)、表 8.3-5(2)の 8 予測地点に記載の地点名 ET*, ES*は AT*, AS*の間違いであったため、評価書において修正いたします。

1 4. 地上気象の観測について（近藤顧問）【準備書 p. 282】

＜ご意見＞

2 調査の基本的な手法(1)気象の状況②現地調査に「地上気象(風向・風速、日射量・放射収支量)を観測し、」とありますが、工事用資材の等の搬入では日射量・放射収支量は測定されていないのではないのでしょうか。

ご指摘のとおり、粉じん等の工事用資材等の搬出入における現地調査では日射量、放射収支量を観測しておりませんので、評価書において削除いたします。

1 5. 大気質の調査・予測地点について（近藤顧問）【準備書 p. 285】

＜ご意見＞

大気質の各調査地点および予測地点の設定根拠を記載してください。

評価書では次ページ（本資料 p. 20）に示すとおり、設定根拠の表を追加いたします。

表 8.3-6 大気質の調査及び予測地点の設定根拠

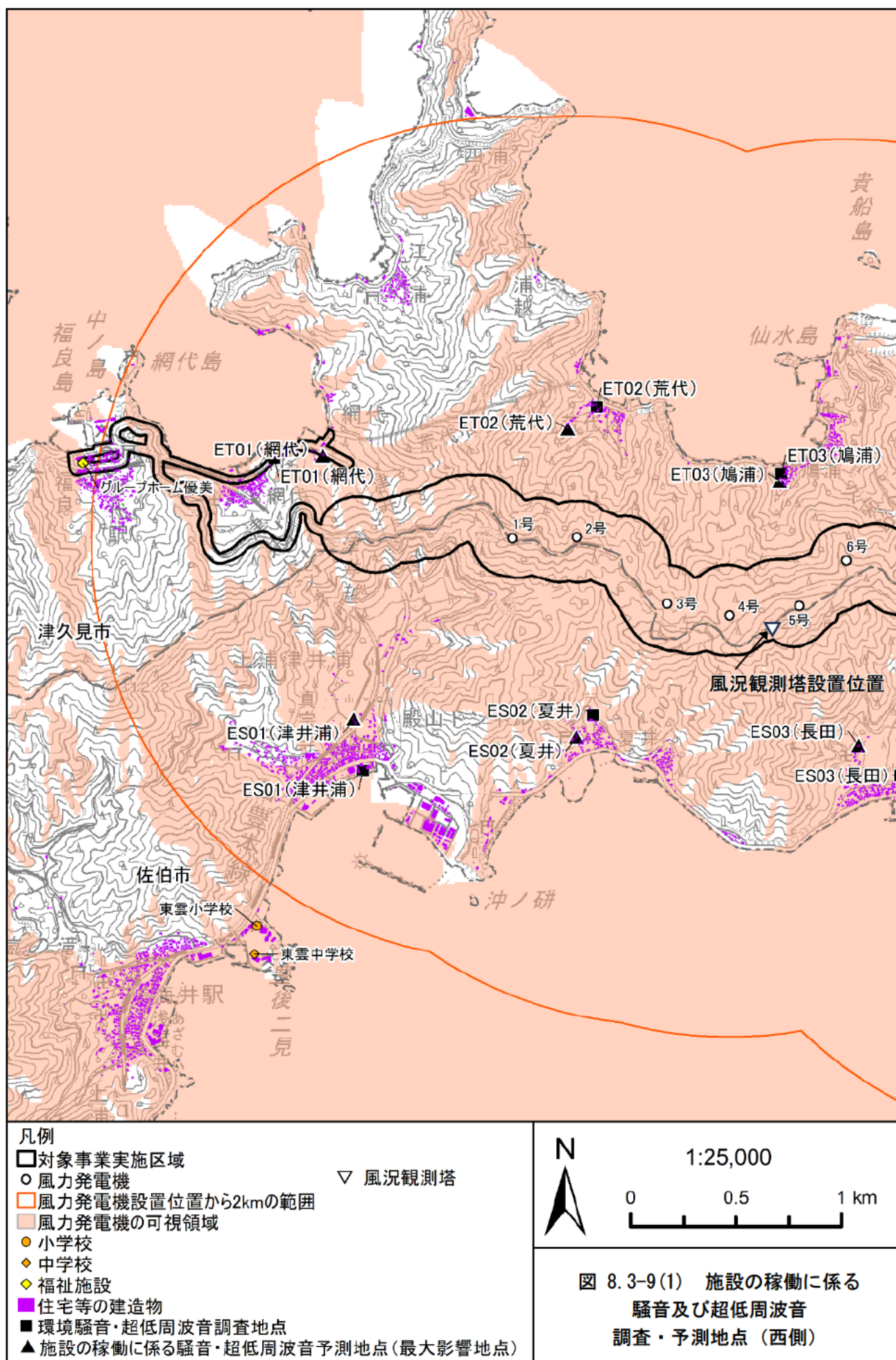
影響要因 の区分	調査 地点	予測 地点	地区	設定根拠
工事用資材 等の搬出入	AT01	AT01	一般国道 217 号 (津久見中央病院前)	工事関係車両の主要な走行ルートである。また、沿道に環境配慮施設の津久見中央病院が立地するため設定した。
	AT02	AT02	一般国道 217 号 (日代郵便局前)	工事関係車両の主要な走行ルートである。また、沿道に環境配慮施設の病院（クリニック）や老人ホームが立地するため設定した。
	—	AT02'	津久見市道福良網代 2 号線	工事関係車両の主要な走行ルートである。また、道路幅員が狭く沿道に民家が立地するため設定した。
	—	AT03'	一般県道四浦日代線	工事関係車両の主要な走行ルートである。また、道路幅員が狭く沿道に民家が立地するため設定した。
建設機械の 稼働	—	AT01	津久見市網代	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する津久見市網代地区に設定した。
	—	AT02	津久見市荒代	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する津久見市荒代地区に設定した。
	AT03	AT03	津久見市鳩浦	四浦半島北側（対象事業実施区域の北側）の状況を代表する地点として津久見市鳩浦地区に設定した。
	—	AT04	津久見市深良津	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する津久見市深良津地区に設定した。
	—	AT05	津久見市落ノ浦	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する津久見市落ノ浦地区に設定した。
	AS01	AS01	佐伯市津井浦	四浦半島南側（対象事業実施区域の南側）の状況を代表する地点として佐伯市津井浦地区に設定した。
	—	AS02	佐伯市夏井	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する佐伯市夏井地区に設定した。
	—	AS03	佐伯市長田	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する佐伯市長田地区に設定した。
	—	AS04	佐伯市福泊	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する佐伯市福泊地区に設定した。
	—	AS05	佐伯市蒲戸	対象事業実施区域周辺に位置する地区の状況を勘案し、対象事業実施区域に近接する佐伯市蒲戸地区に設定した。

1 6. 風況観測塔について（近藤顧問）【準備書 p. 305, 306】

<ご意見>

風況観測塔の位置はどこでしょうか。

評価書では次ページ（本資料 p. 22）に示すとおり、風況観測塔設置位置を追加いたします。



17. 風車の影に係る指針値について（近藤顧問）【準備書 p. 317】

＜ご意見＞

8. 評価の手法に記載のある、「風力発電所の環境影響評価のポイントと参考事例」（平成25(2013)年6月、環境省総合環境政策局 環境影響評価課 環境影響審査室）に示される記載の指針値」とは具体的にどのような指針値でしょうか。

同文献 pⅡ-38 以降に記載の海外の指針値を意味しており、「実際の気象条件等を考慮しない場合において、年間 30 時間かつ 1 日 30 分間を越えないこと」を準備書の評価に採用しています。

18. 植生調査手法について（鈴木顧問）【準備書 p. 335】

＜ご意見＞

・植生図の作成方法の文言に「作成した群落組成表から、各群落の優占種・区分種・標徴種等を踏まえ、群落名を決定した。決定した群落名を判読素図に付与し、植生図を作成した。」とありますが、判読素図に凡例名称を付けるだけならば、作成された植生図は判読素図による相観や優占種での植生区分を凡例とした現存植生図ということになるのではないですか。そうであれば植物社会学的な組成植生調査により群落区分をする意味は半減しますので、本説明段落の2～3行目にあるような表現に修正してください。（p. 943 の「植生の状況」についても同様に願います。）

ご指摘を踏まえ、評価書では「作成した群落組成表から、各群落の優占種・区分種・標徴種等を踏まえ、群落名を決定した。事前に作成した判読素図に対し、現地調査により把握した群落境界や群落名により修正を加えることで植生図を作成した。」という表現に修正いたします。

19. 風速階級別風向出現頻度について（近藤顧問）【準備書 p. 360～】

＜ご意見＞

注 1) に合計に静穏を含むと記載されていますが、含んでいないのではないのでしょうか。

ご指摘のとおり、静穏は集計値に含まれていないため、評価書において修正いたします。

20. 建設機械の稼働に係る窒素酸化物の予測手法について（近藤顧問）【準備書 p. 406】

<ご意見>

表 10.1.1-17(1) 有風時の水平方向の拡散パラメータは必要ですか？

有風時の水平方向の拡散パラメータは、有風時の計算に利用しないため、評価書において表を削除いたします。

21. 粉じん等（降下ばいじん）の調査結果について（近藤顧問）【準備書 p. 418】

<ご意見>

降下ばいじんの測定値が春季に高いですが、周辺から土地埃等が舞い上がるような状況だったのでしょうか。

調査期間中の 4 月 26 日は黄砂が観測されており、降下ばいじん量が高くなった要因であると考えています。

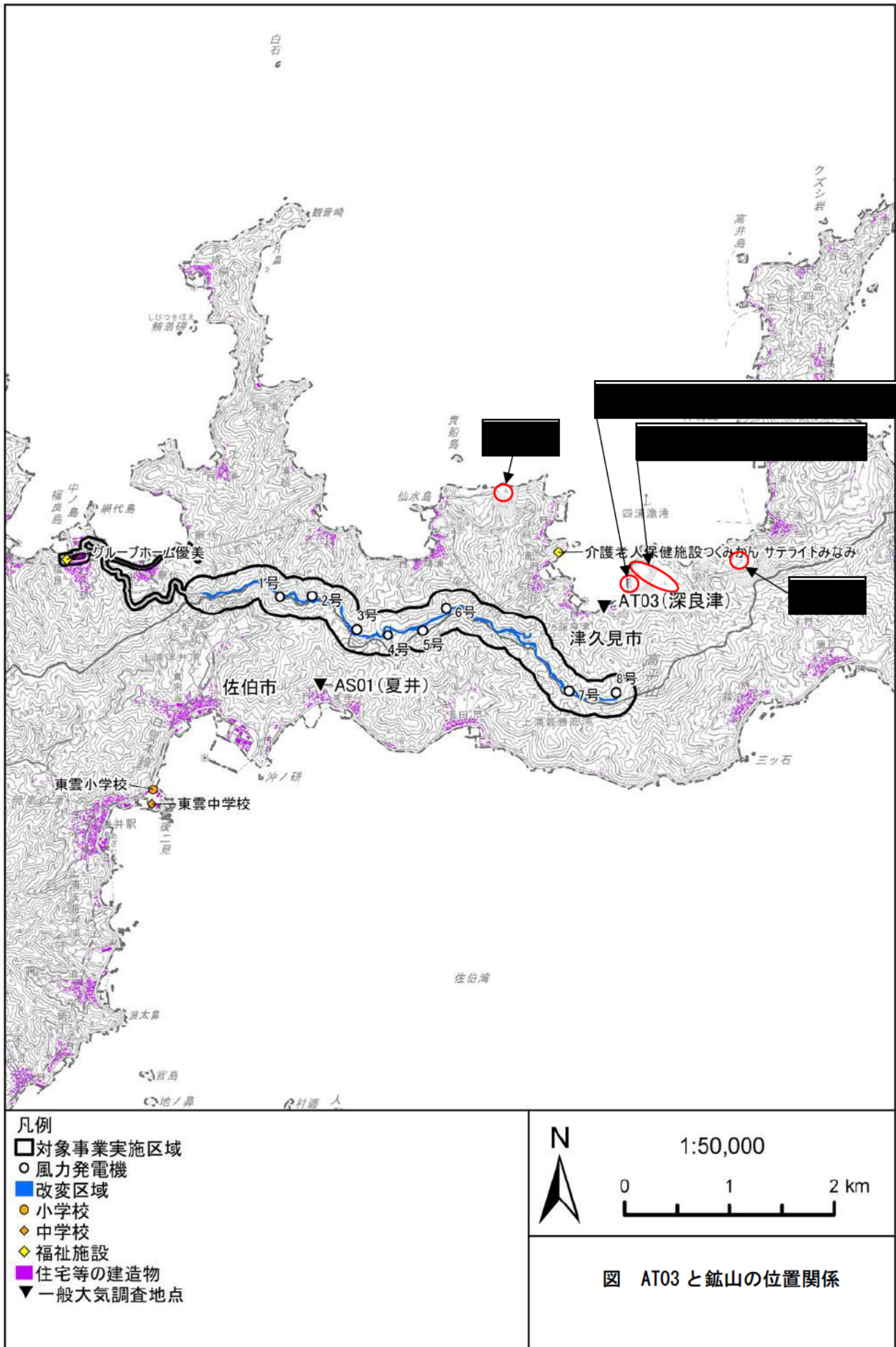
22. 粉じん等（降下ばいじん）の調査結果について（近藤顧問）【p. 419】

<ご意見>

AT03 地点の降下ばいじん量が年間を通じて高いですが、何か考えられる要因はありますか。

AT03 から約 700m 北東には鉱山の貯鉱場や船積場、約 1km に採掘場が存在していることから、他地点と比べて、降下ばいじん量が高くなっているものと考えています。

調査地点と鉱山の位置関係は次ページ（本資料 p. 25）に示すとおりです。



2 3. 建設機械の稼働に係る降下ばいじん量の予測手法について（近藤顧問）【準備書 p. 429】

<ご意見>

i の R_i は風向別降下ばいじん量ではなく、発生源メッシュ別降下ばいじん量ではないでしょうか。 R_i が風向別ならば風向を示す s が添え字に入る必要がありませんか。ii に風向別降下ばいじん量の算出式がありますが、 R_{ds} と重複しており、また R_i はメッシュ別降下ばいじん量とされています。N は 1 方位に含まれるメッシュ数ではないですか？

ご指摘のとおりです。予測式を修正し、評価書において適切な記載に修正いたします。

2 4. 浮遊物質量の調査結果について（水鳥顧問）【準備書 p. 612】

<ご意見>

① 夏季及び秋季の WT11 の浮遊物質量の濃度が環境基準値を上回り、かつ降雨時の濃度より高かった理由について、考察をお願いします。

② 冬季の WT13 の浮遊物質量の濃度も環境基準値を上回っていると思いますので、この点を追記する必要があると思います。また、本地点は降雨時の調査結果も他の地点に比べて高い濃度になっています。この点についても、その要因についてお考えをお聞かせください。

① 環境基準を超過している理由は、無機的な土粒子の混入によるものです。採水はコンクリート管出口で実施しており、また、平常時は流量が少ないことから土粒子の混入があっても避けることが困難でした。以上の旨を評価書の調査結果において追記いたします。

② WT13 の環境基準超過は評価書において、「仮に AA 類型を当てはめると、WT11 の夏季及び秋季、WT13 の冬季において浮遊物質量の濃度は環境基準の「25mg/L」を上回るものの、その他の地点においては環境基準を下回っている。」と修正いたします。また、環境基準を超過している理由は、WT11 と同様に無機的な土粒子の混入によるものです。急傾斜の沢を流下する水を採水しており、土粒子の混入があっても避けることが困難でした。以上の旨を評価書の調査結果において追記いたします。



2 5. 浮遊物質量の調査結果について（中村顧問）【準備書 p. 613】

<ご意見>

降雨時調査結果が示されていますが、やや少なめの降雨量での調査であったようです。特に浮遊懸濁量の結果を見ると、WT2 地点を除いて、夏季の平常時の濃度よりも降雨時調査の濃度が小さいという結果となっており、あまり降雨時調査での目的が達成されていない印象です。以降の濁水発生予測の解析では、降雨時の浮遊懸濁量のデータがそのまま使われていますので、過小評価の恐れがあると思います。

本調査結果を使う前提とした場合、少なくとも、雨量観測点での降水時系列の図と、あわせて各調査地点での調査時刻を示し、どのタイミングで調査されたのかがわかるように整理していただきたいと思います。

評価書においては、降雨量の時系列データと採水のタイミングがわかるグラフを追加いたします。

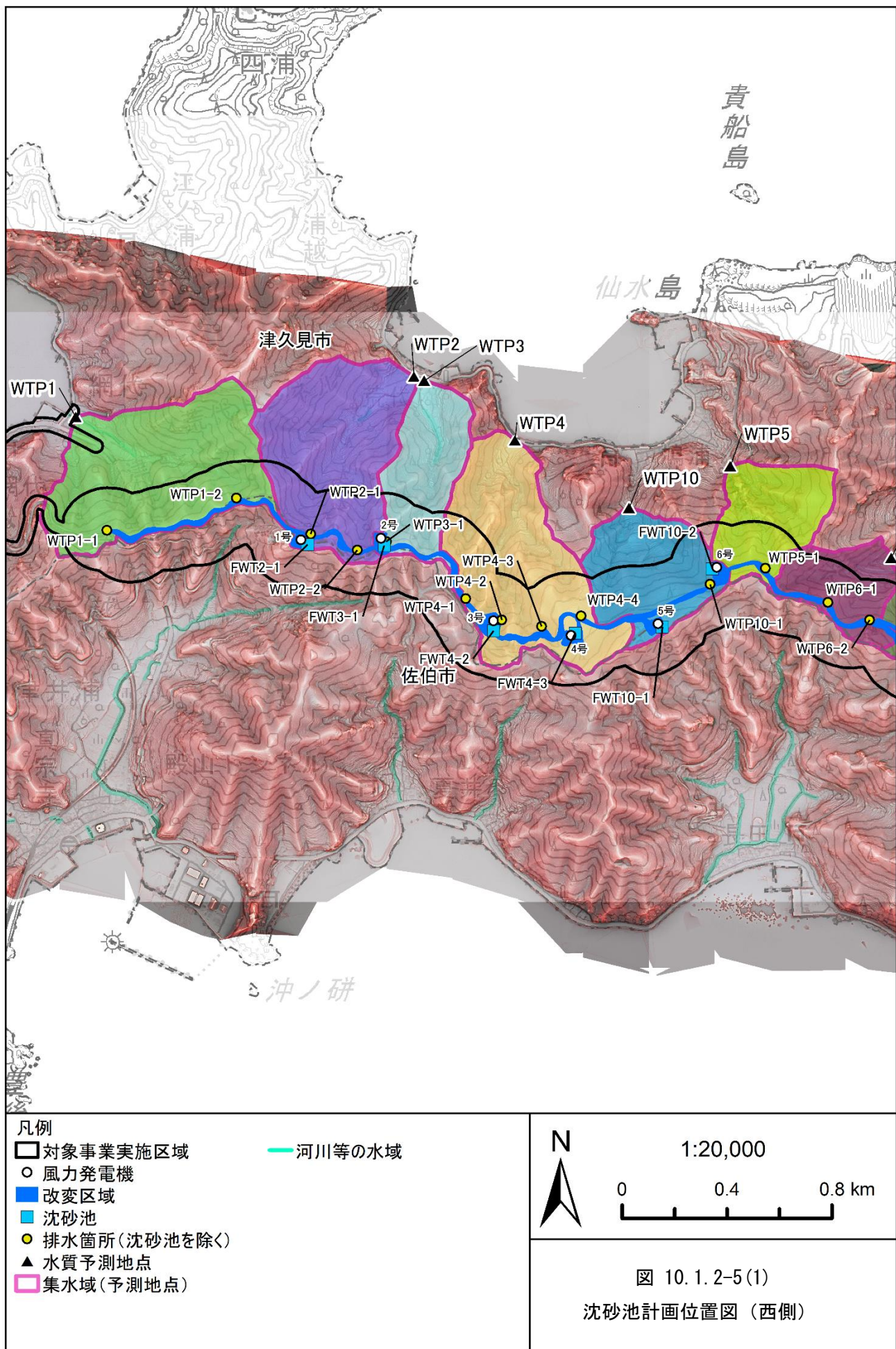
なお、降雨時調査では、降り始めの採水をしておりませんでした。このため、降雨直後のファーストフラッシュで沢に溜まっていた土粒子が流されたこと、また、全地点で平常時の流量が少なく、質問24の回答のとおり土粒子が混入しやすい状況であったことが、平常時と降雨時で浮遊物質量の逆転が生じた要因であると考えております。

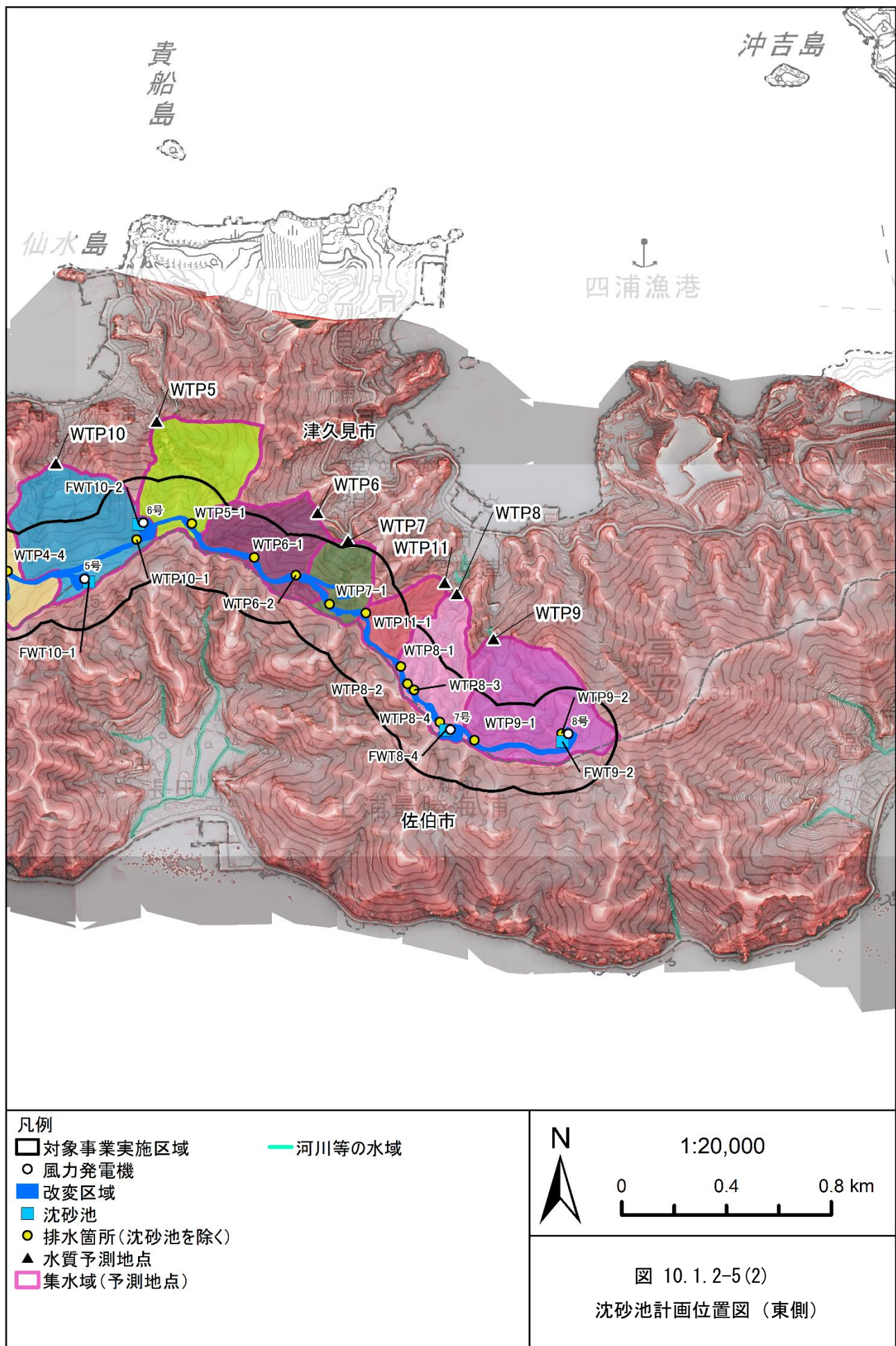
2 6. 沈砂池計画位置図について（水鳥顧問）【準備書 p. 625, 626】

<ご意見>

図中に表 10.1.2-7 に記載された沈砂池やフトンカゴの番号を記載していただくと、分かりやすくなると思います。

ご指摘のとおり、評価書において、次ページ以降（本資料 p. 28～29）に示すとおり修正いたします。また、確認したところ準備書内の沈砂池の記載に誤りがございましたので評価書において、本資料 p. 30～34 に示すとおり修正いたします。





【修正後】赤字部分を修正

表 10.1.2-7 沈砂池等集水域の流出係数

予測地点	番号	排水箇所 形式	改変区域 面積 (m ²)	改変区域外 面積 (m ²)	排水箇所 集水域面積 (m ²)	流出係数 (改変区域)	流出係数 (改変区域外)
WTP1	WTP1-1	フトンカゴ	8,615.6	0.0	8,615.6	1.0	—
	WTP1-2	フトンカゴ	5,076.2	2,265.4	7,341.6	1.0	0.72
WTP2	WTP2-1	フトンカゴ	2,376.7	3,229.0	5,605.7	1.0	0.77
	WTP2-2	フトンカゴ	3,374.5	8,088.6	11,463.1	1.0	0.77
	FWT2-1	沈砂池	3,751.7	0.0	3,751.7	1.0	—
WTP3	WTP3-1	フトンカゴ	8,433.2	4,470.3	12,903.5	1.0	0.73
	FWT3-1	沈砂池	2,178.7	0.0	2,178.7	1.0	—
WTP4	WTP4-1	フトンカゴ	1,941.1	1,269.7	3,210.8	1.0	0.73
	WTP4-2	フトンカゴ	6,667.6	18,045.2	24,712.8	1.0	0.73
	WTP4-3	フトンカゴ	5,273.4	16,566.8	21,840.1	1.0	0.73
	WTP4-4	フトンカゴ	3,707.0	11,011.2	14,718.3	1.0	0.73
	FWT4-2	沈砂池	3,651.1	0.0	3,651.1	1.0	—
	FWT4-3	沈砂池	3,882.0	9,792.3	13,674.3	1.0	0.73
WTP5	WTP5-1	フトンカゴ	3,838.1	5,895.1	9,733.1	1.0	0.73
WTP6	WTP6-1	フトンカゴ	3,962.0	2,637.5	6,599.5	1.0	0.69
	WTP6-2	フトンカゴ	6,161.9	11,535.0	17,696.9	1.0	0.69
WTP7	WTP7-1	フトンカゴ	3,485.0	6,076.6	9,561.6	1.0	0.86
WTP8	WTP8-1	フトンカゴ	1,362.9	613.8	1,976.7	1.0	0.70
	WTP8-2	フトンカゴ	754.8	905.7	1,660.5	1.0	0.70
	WTP8-3	フトンカゴ	2,970.2	2,636.2	5,606.4	1.0	0.70
	WTP8-4	フトンカゴ	2,433.0	2,095.8	4,528.8	1.0	0.70
	FWT8-4	沈砂池	4,188.1	0.0	4,188.1	1.0	—
WTP9	WTP9-1	フトンカゴ	4,369.1	6,809.9	11,179.1	1.0	0.70
	WTP9-2	フトンカゴ	3,958.9	7,519.6	11,478.5	1.0	0.70
	FWT9-2	沈砂池	2,450.3	0.0	2,450.3	1.0	—
WTP10	WTP10-1	フトンカゴ	9,496.4	14,834.7	24,331.1	1.0	0.77
	FWT10-1	沈砂池	3,357.8	5,919.4	9,277.3	1.0	0.77
	FWT10-2	沈砂池	2,537.1	0.0	2,537.1	1.0	—
WTP11	WTP11-1	フトンカゴ	3,695.1	2,322.6	6,017.7	1.0	0.70

【当初】

表 10.1.2-7 沈砂池等集水域の流出係数

予測地点	番号	排水箇所 形式	改変区域 面積 (m ²)	改変区域外 面積 (m ²)	排水箇所 集水域面積 (m ²)	流出係数 (改変区域)	流出係数 (改変区域外)
WTP1	WTP1-1	フトンカゴ	8,615.6	0.0	8,615.6	1.0	—
	WTP1-2	フトンカゴ	5,076.2	2,265.4	7,341.6	1.0	0.72
WTP2	WTP2-1	フトンカゴ	2,376.7	3,229.0	5,605.7	1.0	0.77
	WTP2-2	フトンカゴ	3,374.5	8,088.6	11,463.1	1.0	0.77
	FWT2-1	沈砂池	3,751.7	0.0	3,751.7	1.0	—
WTP3	WTP3-1	フトンカゴ	8,433.2	4,470.3	12,903.5	1.0	0.73
	FWT3-1	沈砂池	2,178.7	0.0	2,178.7	1.0	—
WTP4	WTP4-1	フトンカゴ	1,941.1	1,269.7	3,210.8	1.0	0.73
	WTP4-2	フトンカゴ	6,667.6	18,045.2	24,712.8	1.0	0.73
	WTP4-3	フトンカゴ	5,273.4	16,566.8	21,840.1	1.0	0.73
	WTP4-4	フトンカゴ	3,707.0	11,011.2	14,718.3	1.0	0.73
	FWT4-2	沈砂池	3,651.1	0.0	3,651.1	1.0	—
	FWT4-3	沈砂池	3,882.0	9,792.3	13,674.3	1.0	0.73
WTP5	WTP5-1	フトンカゴ	3,838.1	5,895.1	9,733.1	1.0	0.73
WTP6	WTP6-1	フトンカゴ	3,962.0	2,637.5	6,599.5	1.0	0.69
	WTP6-2	フトンカゴ	6,161.9	11,535.0	17,696.9	1.0	0.69
WTP7	WTP7-1	フトンカゴ	3,485.0	6,076.6	9,561.6	1.0	0.86
WTP8	WTP8-1	フトンカゴ	1,362.9	613.8	1,976.7	1.0	0.70
	WTP8-2	フトンカゴ	754.8	905.7	1,660.5	1.0	0.70
	WTP8-3	フトンカゴ	2,970.2	2,636.2	5,606.4	1.0	0.70
	WTP8-4	フトンカゴ	2,433.0	2,095.8	4,528.8	1.0	0.70
	FWT8-4	沈砂池	4,188.1	0.0	4,188.1	1.0	—
WTP9	WTP9-1	フトンカゴ	4,369.1	6,809.9	11,179.1	1.0	0.70
	WTP9-2	フトンカゴ	3,958.9	7,519.6	11,478.5	1.0	0.70
	FWT9-2	沈砂池	2,450.3	0.0	2,450.3	1.0	—
WTP10	WTP10-1	フトンカゴ	9,496.4	14,834.7	24,331.1	1.0	0.77
	FWT10-1	沈砂池	392.9	0.0	392.9	1.0	—
WTP11	WTP11-1	フトンカゴ	3,695.1	2,322.6	6,017.7	1.0	0.70

【修正後】赤字部分を修正

表 10.1.2-13 沈砂池等流入口における浮遊物質質量濃度

予測地点	番号	排水箇所形式	改変区域からの 濁水発存量(m³/h)		改変区域外からの 濁水発存量(m³/h)		沈砂池等集水域の 濁水発存量合計(m³/h)		降雨時現地 調査結果の 浮遊物質 濃度最大値 (mg/L)	改変区域か ら発生する 濁水濃度 (mg/L)	沈砂池等流入口の 浮遊物質濃度 (mg/L)	
			5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h			5.0mm/h	117.5mm/h
WTP1	WTP1-1	フトンカゴ	43.08	1,012.33	0.00	0.00	43.08	1,012.33	3	2,000	2,000	2,000
	WTP1-2	フトンカゴ	25.38	596.46	8.16	191.65	33.54	788.11	3	2,000	1,514	1,514
WTP2	WTP2-1	フトンカゴ	11.88	279.26	12.43	292.15	24.31	571.41	7	2,000	981	981
	WTP2-2	フトンカゴ	16.87	396.51	31.14	731.82	48.01	1,128.33	7	2,000	707	707
	FWT2-1	沈砂池	18.76	440.83	0.00	0.00	18.76	440.83	7	2,000	2,000	2,000
WTP3	WTP3-1	フトンカゴ	42.17	990.90	16.32	383.44	58.49	1,374.34	3	2,000	1,443	1,443
	FWT3-1	沈砂池	10.89	255.99	0.00	0.00	10.89	255.99	3	2,000	2,000	2,000
WTP4	WTP4-1	フトンカゴ	9.71	228.08	4.63	108.91	14.34	336.99	11	2,000	1,358	1,357
	WTP4-2	フトンカゴ	33.34	783.45	65.86	1,547.83	99.20	2,331.28	11	2,000	679	679
	WTP4-3	フトンカゴ	26.37	619.62	60.47	1,421.01	86.84	2,040.63	11	2,000	615	615
	WTP4-4	フトンカゴ	18.54	435.58	40.19	944.49	58.73	1,380.07	11	2,000	639	639
	FWT4-2	沈砂池	18.26	429.00	0.00	0.00	18.26	429.00	11	2,000	2,000	2,000
	FWT4-3	沈砂池	19.41	456.14	35.74	839.93	55.15	1,296.07	11	2,000	711	711
WTP5	WTP5-1	フトンカゴ	19.19	450.97	21.52	505.65	40.71	956.62	1	2,000	943	943
WTP6	WTP6-1	フトンカゴ	19.81	465.54	9.10	213.84	28.91	679.38	17	2,000	1,376	1,376
	WTP6-2	フトンカゴ	30.81	724.02	39.80	935.20	70.61	1,659.22	17	2,000	882	882
WTP7	WTP7-1	フトンカゴ	17.42	409.49	26.13	614.04	43.55	1,023.53	13	2,000	808	808
WTP8	WTP8-1	フトンカゴ	6.81	160.15	2.15	50.48	8.96	210.63	9	2,000	1,522	1,523
	WTP8-2	フトンカゴ	3.77	88.69	3.17	74.49	6.94	163.18	9	2,000	1,091	1,091
	WTP8-3	フトンカゴ	14.85	349.00	9.23	216.83	24.08	565.83	9	2,000	1,237	1,237
	WTP8-4	フトンカゴ	12.16	285.88	7.34	172.38	19.50	458.26	9	2,000	1,251	1,251
	FWT8-4	沈砂池	20.94	492.10	0.00	0.00	20.94	492.10	9	2,000	2,000	2,000
WTP9	WTP9-1	フトンカゴ	21.85	513.37	23.83	560.12	45.68	1,073.49	9	2,000	961	961
	WTP9-2	フトンカゴ	19.79	465.17	26.32	618.49	46.11	1,083.66	9	2,000	864	864
	FWT9-2	沈砂池	12.25	287.91	0.00	0.00	12.25	287.91	9	2,000	2,000	2,000
WTP10	WTP10-1	フトンカゴ	47.48	1,115.82	57.11	1,342.17	104.59	2,457.99	17	2,000	917	917
	FWT10-1	沈砂池	16.79	394.54	22.79	535.56	39.58	930.10	17	2,000	858	858
	FWT10-2	沈砂池	12.69	298.11	0.00	0.00	12.69	298.11	17	2,000	2,000	2,000
WTP11	WTP11-1	フトンカゴ	18.48	434.17	8.13	191.03	26.61	625.20	17	2,000	1,394	1,394

【当初】

表 10.1.2-13 沈砂池等流入口における浮遊物質質量濃度

予測地点	番号	排水箇所形式	改変区域からの 濁水発存量(m³/h)		改変区域外からの 濁水発存量(m³/h)		沈砂池等集水域の 濁水発存量合計(m³/h)		降雨時現地 調査結果の 浮遊物質 濃度最大値 (mg/L)	改変区域か ら発生する 濁水濃度 (mg/L)	沈砂池等流入口の 浮遊物質濃度 (mg/L)	
			5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h			5.0mm/h	117.5mm/h
WTP1	WTP1-1	フトンカゴ	43.08	1,012.33	0.00	0.00	43.08	1,012.33	3	2,000	2,000	2,000
	WTP1-2	フトンカゴ	25.38	596.46	8.16	191.65	33.54	788.11	3	2,000	1,514	1,514
WTP2	WTP2-1	フトンカゴ	11.88	279.26	12.43	292.15	24.31	571.41	7	2,000	981	981
	WTP2-2	フトンカゴ	16.87	396.51	31.14	731.82	48.01	1,128.33	7	2,000	707	707
	FWT2-1	沈砂池	18.76	440.83	0.00	0.00	18.76	440.83	7	2,000	2,000	2,000
WTP3	WTP3-1	フトンカゴ	42.17	990.90	16.32	383.44	58.49	1,374.34	3	2,000	1,443	1,443
	FWT3-1	沈砂池	10.89	255.99	0.00	0.00	10.89	255.99	3	2,000	2,000	2,000
WTP4	WTP4-1	フトンカゴ	9.71	228.08	4.63	108.91	14.34	336.99	11	2,000	1,358	1,357
	WTP4-2	フトンカゴ	33.34	783.45	65.86	1,547.83	99.20	2,331.28	11	2,000	679	679
	WTP4-3	フトンカゴ	26.37	619.62	60.47	1,421.01	86.84	2,040.63	11	2,000	615	615
	WTP4-4	フトンカゴ	18.54	435.58	40.19	944.49	58.73	1,380.07	11	2,000	639	639
	FWT4-2	沈砂池	18.26	429.00	0.00	0.00	18.26	429.00	11	2,000	2,000	2,000
	FWT4-3	沈砂池	19.41	456.14	35.74	839.93	55.15	1,296.07	11	2,000	711	711
WTP5	WTP5-1	フトンカゴ	19.19	450.97	21.52	505.65	40.71	956.62	1	2,000	943	943
WTP6	WTP6-1	フトンカゴ	19.81	465.54	9.10	213.84	28.91	679.38	17	2,000	1,376	1,376
	WTP6-2	フトンカゴ	30.81	724.02	39.80	935.20	70.61	1,659.22	17	2,000	882	882
WTP7	WTP7-1	フトンカゴ	17.42	409.49	26.13	614.04	43.55	1,023.53	13	2,000	808	808
WTP8	WTP8-1	フトンカゴ	6.81	160.15	2.15	50.48	8.96	210.63	9	2,000	1,522	1,523
	WTP8-2	フトンカゴ	3.77	88.69	3.17	74.49	6.94	163.18	9	2,000	1,091	1,091
	WTP8-3	フトンカゴ	14.85	349.00	9.23	216.83	24.08	565.83	9	2,000	1,237	1,237
	WTP8-4	フトンカゴ	12.16	285.88	7.34	172.38	19.50	458.26	9	2,000	1,251	1,251
	FWT8-4	沈砂池	20.94	492.10	0.00	0.00	20.94	492.10	9	2,000	2,000	2,000
WTP9	WTP9-1	フトンカゴ	21.85	513.37	23.83	560.12	45.68	1,073.49	9	2,000	961	961
	WTP9-2	フトンカゴ	19.79	465.17	26.32	618.49	46.11	1,083.66	9	2,000	864	864
	FWT9-2	沈砂池	12.25	287.91	0.00	0.00	12.25	287.91	9	2,000	2,000	2,000
WTP10	WTP10-1	フトンカゴ	47.48	1,115.82	57.11	1,342.17	104.59	2,457.99	17	2,000	917	917
	FWT10-1	沈砂池	1.96	46.16	0.00	0.00	1.96	46.16	17	2,000	2,000	2,000
WTP11	WTP11-1	フトンカゴ	18.48	434.17	8.13	191.03	26.61	625.20	17	2,000	1,394	1,394

【修正後】赤字部分を修正

表 10.1.2-14 滞留時間計算結果

予測地点	番号	排水箇所 形式	滞留時間 (h)		沈砂池容量 (m³)	沈砂池等から排水される 浮遊物質濃度 (mg/L)	
			5.0mm/h	117.5mm/h		5.0mm/h	117.5mm/h
WTP1	WTP1-1	フトンカゴ	—	—	—	2,000	2,000
	WTP1-2	フトンカゴ	—	—	—	1,514	1,514
WTP2	WTP2-1	フトンカゴ	—	—	—	981	981
	WTP2-2	フトンカゴ	—	—	—	707	707
	FWT2-1	沈砂池	10	0(25)	186	21	207
WTP3	WTP3-1	フトンカゴ	—	—	—	1,443	1,443
	FWT3-1	沈砂池	17	1	186	14	139
WTP4	WTP4-1	フトンカゴ	—	—	—	1,358	1,357
	WTP4-2	フトンカゴ	—	—	—	679	679
	WTP4-3	フトンカゴ	—	—	—	615	615
	WTP4-4	フトンカゴ	—	—	—	639	639
	FWT4-2	沈砂池	10	0(26)	186	21	204
	FWT4-3	沈砂池	3	0(8)	186	16	162
WTP5	WTP5-1	フトンカゴ	—	—	—	943	943
WTP6	WTP6-1	フトンカゴ	—	—	—	1,376	1,376
	WTP6-2	フトンカゴ	—	—	—	882	882
WTP7	WTP7-1	フトンカゴ	—	—	—	808	808
WTP8	WTP8-1	フトンカゴ	—	—	—	1,522	1,523
	WTP8-2	フトンカゴ	—	—	—	1,091	1,091
	WTP8-3	フトンカゴ	—	—	—	1,237	1,237
	WTP8-4	フトンカゴ	—	—	—	1,251	1,251
	FWT8-4	沈砂池	9	0(23)	186	23	222
WTP9	WTP9-1	フトンカゴ	—	—	—	961	961
	WTP9-2	フトンカゴ	—	—	—	864	864
	FWT9-2	沈砂池	15	1	186	16	151
WTP10	WTP10-1	フトンカゴ	—	—	—	917	917
	FWT10-1	沈砂池	5	0(12)	186	16	152
	FWT10-2	沈砂池	15	1	186	16	156
WTP11	WTP11-1	フトンカゴ	—	—	—	1,394	1,394

【当初】

表 10.1.2-14 滞留時間計算結果

予測地点	番号	排水箇所 形式	滞留時間 (h)		沈砂池容量 (m ³)	沈砂池等から排水される 浮遊物質濃度 (mg/L)	
			5.0mm/h	117.5mm/h		5.0mm/h	117.5mm/h
WTP1	WTP1-1	フトンカゴ	—	—	—	2,000	2,000
	WTP1-2	フトンカゴ	—	—	—	1,514	1,514
WTP2	WTP2-1	フトンカゴ	—	—	—	981	981
	WTP2-2	フトンカゴ	—	—	—	707	707
	FWT2-1	沈砂池	10	0(25)	186	130	511
WTP3	WTP3-1	フトンカゴ	—	—	—	1,443	1,443
	FWT3-1	沈砂池	17	1	186	103	402
WTP4	WTP4-1	フトンカゴ	—	—	—	1,358	1,357
	WTP4-2	フトンカゴ	—	—	—	679	679
	WTP4-3	フトンカゴ	—	—	—	615	615
	WTP4-4	フトンカゴ	—	—	—	639	639
	FWT4-2	沈砂池	10	0(26)	186	129	506
	FWT4-3	沈砂池	3	0(8)	186	74	292
WTP5	WTP5-1	フトンカゴ	—	—	—	943	943
WTP6	WTP6-1	フトンカゴ	—	—	—	1,376	1,376
	WTP6-2	フトンカゴ	—	—	—	882	882
WTP7	WTP7-1	フトンカゴ	—	—	—	808	808
WTP8	WTP8-1	フトンカゴ	—	—	—	1,522	1,523
	WTP8-2	フトンカゴ	—	—	—	1,091	1,091
	WTP8-3	フトンカゴ	—	—	—	1,237	1,237
	WTP8-4	フトンカゴ	—	—	—	1,251	1,251
	FWT8-4	沈砂池	9	0(23)	186	137	534
WTP9	WTP9-1	フトンカゴ	—	—	—	961	961
	WTP9-2	フトンカゴ	—	—	—	864	864
	FWT9-2	沈砂池	15	1	186	108	423
WTP10	WTP10-1	フトンカゴ	—	—	—	917	917
	FWT10-1	沈砂池	95	4	186	49	192
WTP11	WTP11-1	フトンカゴ	—	—	—	1,394	1,394

27. 水質（浮遊物質）の予測手法について（平口顧問）【準備書 p. 633】

<ご意見>

図 10. 1. 2-7（土壌沈降特性）の中に記されている点線および冪乗式は回帰式でしょうか？それぞれ沈降特性の回帰式が図中の式となることを確認して下さい。（点線（近似曲線）の傾きおよび切片が、回帰式の係数と整合していないように見えるので質問しています）

回帰式に誤りがある場合は、Cs の予測式（p. 633）をはじめ、濁りの予測結果および評価結果を適切に修正して下さい。

回帰式改めて確認いたしましたところ、S1 : $y = 98.262 \cdot X^{-0.749}$ 、S2 : $y = 111.35 \cdot X^{-0.721}$ が正しい値となっておりましたので再計算しました。

評価書において、本資料 p. 35～37 に示すとおり修正いたします。

【修正後】赤字部分を修正。

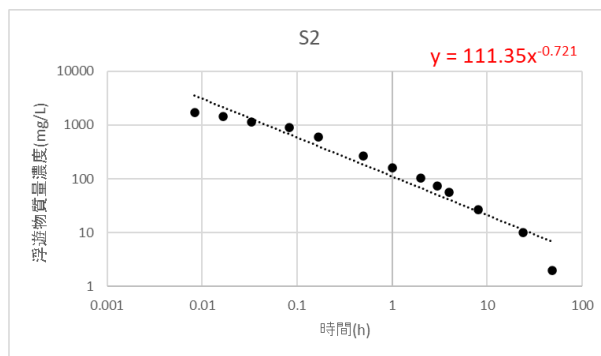
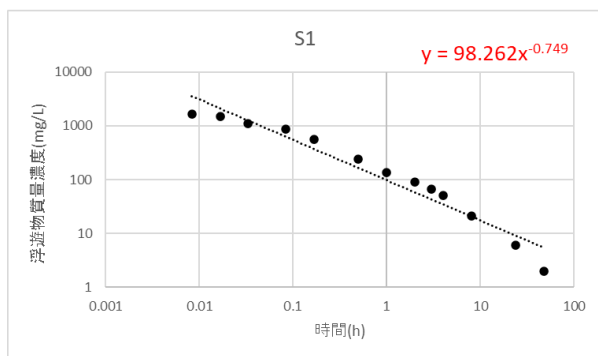


図 10. 1. 2-7 土壌沈降特性

【当初】

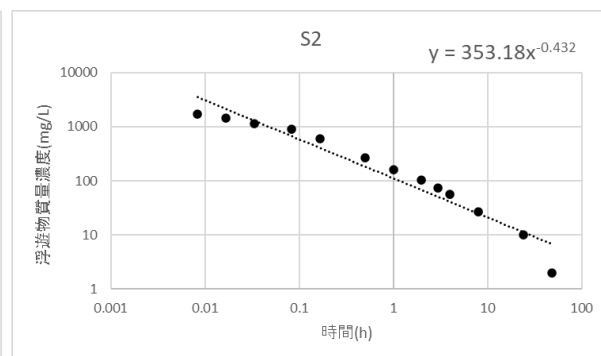
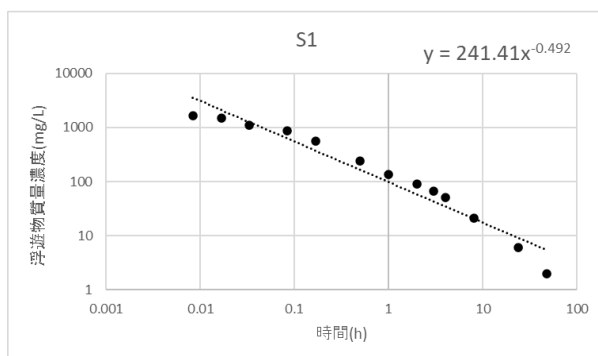


図 10. 1. 2-7 土壌沈降特性

【修正後】赤字部分を修正。

表 10.1.2-16 河川の予測地点における浮遊物質（SS）濃度の予測結果

予測地点	現地調査結果 (降雨時最大値) (mg/L)	予測結果			
		降雨強度 5.0mm/h		降雨強度 117.5mm/h	
		浮遊物質濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)
WTP1	3	100	97	100	97
WTP2	7	52	45	54	47
WTP3	3	135	132	137	134
WTP4	11	140	129	148	137
WTP5	1	67	66	67	66
WTP6	17	246	229	246	229
WTP7	13	140	127	140	127
WTP8	9	194	185	204	195
WTP9	9	125	116	128	119
WTP10	17	142	125	151	134
WTP11	17	197	180	197	180

【当初】

表 10.1.2-16 河川の予測地点における浮遊物質（SS）濃度の予測結果

予測地点	現地調査結果 (降雨時最大値) (mg/L)	予測結果			
		降雨強度 5.0mm/h		降雨強度 117.5mm/h	
		浮遊物質濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)
WTP1	3	100	97	100	97
WTP2	7	53	46	59	52
WTP3	3	137	134	142	139
WTP4	11	144	133	157	146
WTP5	1	67	66	67	66
WTP6	17	246	229	246	229
WTP7	13	140	127	140	127
WTP8	9	199	190	220	211
WTP9	9	127	118	132	123
WTP10	17	143	126	143	126
WTP11	17	197	180	197	180

【修正後】赤字部分を修正。

表 10.1.2-19 濁水到達の推定を考慮した河川の予測地点における浮遊物質（SS）濃度の予測結果

予測地点	現地調査結果 (降雨時 最大値) (mg/L)	予測結果							
		降雨強度 5.0mm/h				降雨強度 117.5mm/h			
		濁水到達の推定なし		濁水到達の推定あり		濁水到達の推定なし		濁水到達の推定あり	
		浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)
WTP1	3	100	97	100	97	100	97	100	97
WTP2	7	52	45	52	45	54	47	54	47
WTP3	3	135	132	135	132	137	134	137	134
WTP4	11	140	129	140	129	148	137	148	137
WTP5	1	67	66	67	66	67	66	67	66
WTP6	17	246	229	246	229	246	229	246	229
WTP7	13	140	127	140	127	140	127	140	127
WTP8	9	194	185	147	138	204	195	158	149
WTP9	9	125	116	75	66	128	119	75	66
WTP10	17	142	125	142	125	151	134	151	134
WTP11	17	197	180	197	180	197	180	197	180

【当初】

表 10.1.2-19 濁水到達の推定を考慮した河川の予測地点における浮遊物質（SS）濃度の予測結果

予測地点	現地調査結果 (降雨時 最大値) (mg/L)	予測結果							
		降雨強度 5.0mm/h				降雨強度 117.5mm/h			
		濁水到達の推定なし		濁水到達の推定あり		濁水到達の推定なし		濁水到達の推定あり	
		浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)	浮遊物質 量濃度 (mg/L)	差分 (mg/L)
WTP1	3	100	97	100	97	100	97	100	97
WTP2	7	53	46	53	46	59	52	59	52
WTP3	3	137	134	137	134	142	139	142	139
WTP4	11	144	133	144	133	157	146	157	146
WTP5	1	67	66	67	66	67	66	67	66
WTP6	17	246	229	246	229	246	229	246	229
WTP7	13	140	127	140	127	140	127	140	127
WTP8	9	199	190	153	144	220	211	175	166
WTP9	9	127	118	75	66	132	123	75	66
WTP10	17	143	126	143	126	143	126	143	126
WTP11	17	197	180	197	180	197	180	197	180

28. 予測地点に流入する浮遊物質濃度の算出結果について（中村顧問）【準備書 p. 635】

<ご意見>

表 10.1.2-15 を見ますと、降水量 5mm/h の場合よりも 117.5mm/h の場合の方が濁水流入量が小さくなっており、不自然に思います。ご確認ください。

表 10.1.2-15 にて掲載する値に誤りがございました。
評価書において、以下に示すとおり修正いたします。

【修正後】赤字部分を修正。

表 10.1.2-15 各予測地点において完全混合モデルを用いた浮遊物質濃度の算出結果

予測地点	変更区域からの流入量 (m ³ /h)		変更区域外からの流入量 (m ³ /h)		各予測地点への 流入量合計(m ³ /h)		降雨時現地 調査結果最 大値(mg/L)	変更区域か ら発生する 濁水濃度 (mg/L)	各予測地点に流入する 浮遊物質濃度 (mg/L)	
	5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h			5.0mm/h	117.5mm/h
WTP1	77	1,800	1,332	31,291	1,408	33,091	3	2,000	100	100
WTP2	91	2,141	1,197	28,120	1,288	30,261	7	2,000	52	54
WTP3	69	1,630	568	13,352	638	14,982	3	2,000	135	137
WTP4	333	7,814	1,029	24,181	1,361	31,995	11	2,000	140	148
WTP5	41	957	539	12,678	580	13,635	1	2,000	67	67
WTP6	100	2,339	338	7,951	438	10,290	17	2,000	246	246
WTP7	44	1,024	230	5,401	273	6,424	13	2,000	140	140
WTP8	80	1,890	327	7,681	407	9,571	9	2,000	194	204
WTP9	104	2,445	610	14,330	714	16,775	9	2,000	125	128
WTP10	157	3,686	597	14,037	754	17,723	17	2,000	142	151
WTP11	27	625	177	4,162	204	4,787	17	2,000	197	197

【当初】

表 10.1.2-15 各予測地点において完全混合モデルを用いた浮遊物質濃度の算出結果

予測地点	変更区域からの流入量 (m ³ /h)		変更区域外からの流入量 (m ³ /h)		各予測地点への 流入量合計(m ³ /h)		降雨時現地 調査結果最 大値(mg/L)	変更区域か ら発生する 濁水濃度 (mg/L)	各予測地点に流入する 浮遊物質濃度 (mg/L)	
	5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h	5.0mm/h	117.5mm/h			5.0mm/h	117.5mm/h
WTP1	77	93,873	1,332	97	1,408	93,970	3	2,000	100	100
WTP2	91	196,841	1,197	46	1,288	196,887	7	2,000	53	59
WTP3	69	40,055	568	134	638	40,189	3	2,000	137	142
WTP4	333	265,990	1,029	133	1,361	266,123	11	2,000	144	157
WTP5	41	12,678	539	66	580	12,744	1	2,000	67	67
WTP6	100	135,175	338	229	438	135,404	17	2,000	246	246
WTP7	44	70,211	230	127	273	70,338	13	2,000	140	140
WTP8	80	69,125	327	190	407	69,315	9	2,000	199	220
WTP9	104	128,968	610	118	714	129,086	9	2,000	127	132
WTP10	107	256,265	641	126	748	256,391	17	2,000	143	143
WTP11	27	70,746	177	180	204	70,926	17	2,000	197	197

29. 風車の影のかかる時間の予測結果について（阿部顧問）【準備書 p. 651】

＜ご意見＞

実際の気象条件を考慮する場合を計算しなかった理由は何でしょうか？

四浦半島は瀬戸内海に面しており、日照時間が極端に少ない地域ではないことから、実気象による計算はしていません。

30. 風車の影に係る評価結果について（近藤顧問）【準備書 p. 664】

＜ご意見＞

・かなりの数の住宅が指針値を上回る日影時間となることが予測されていますが、樹木・建物の存在や住居の窓の方向などは現地調査しなかったのでしょうか。

・事後調査を行うのであれば行うこととその理由をここにも明記したほうがよいのではないのでしょうか。

- ・現地確認は実施しました。指針値を超過する家屋は風車方向となる南側等に採光用の窓を有しており、また風車が直接視認できる家屋が多く、住宅数はほとんど変わらない結果となります。
- ・事後調査の実施とその理由について、当該ページにも明記することといたします。

31. 風車の影による影響の実態把握について（阿部顧問）【準備書 p. 664, 1232】

＜ご意見＞

実態把握は具体的にどのように実施するのでしょうか？

シャドウフリッカーの生活等への影響について、対象家屋の住民へのアンケートまたはヒアリングにより把握することを考えています。

3 2. 鳥類のブレードへの接触に係る影響予測について（阿部顧問）【準備書 p860, 863, 867, 873, 879, 883, 901】

<ご意見>

近年増加傾向にあることなどと、ブレードへの接触の影響が生じる可能性が低いこととは関係ないのでしょうか？あくまで、算出された衝突予測の結果と、事後調査による不確実性の補完を記述すべきでないでしょうか？

風力発電機の稼働に伴いバードストライク等による鳥類への影響の可能性が考えられますが、ミサゴやハチクマ等は近年個体数が増加傾向にあると指摘されています。

そのため、風力発電機の稼働によりこれらの種の存続にかかわる影響は相対的に小さくなっていると考えられたことから、記載を行いました。

一方、ご指摘のとおり個体の増加傾向と接触の可能性が低いことは関係がないことから、本文中は予測評価の不確実性を補完するために事後調査を実施する旨の記載に留め、個体数に関する記述は削除いたします。

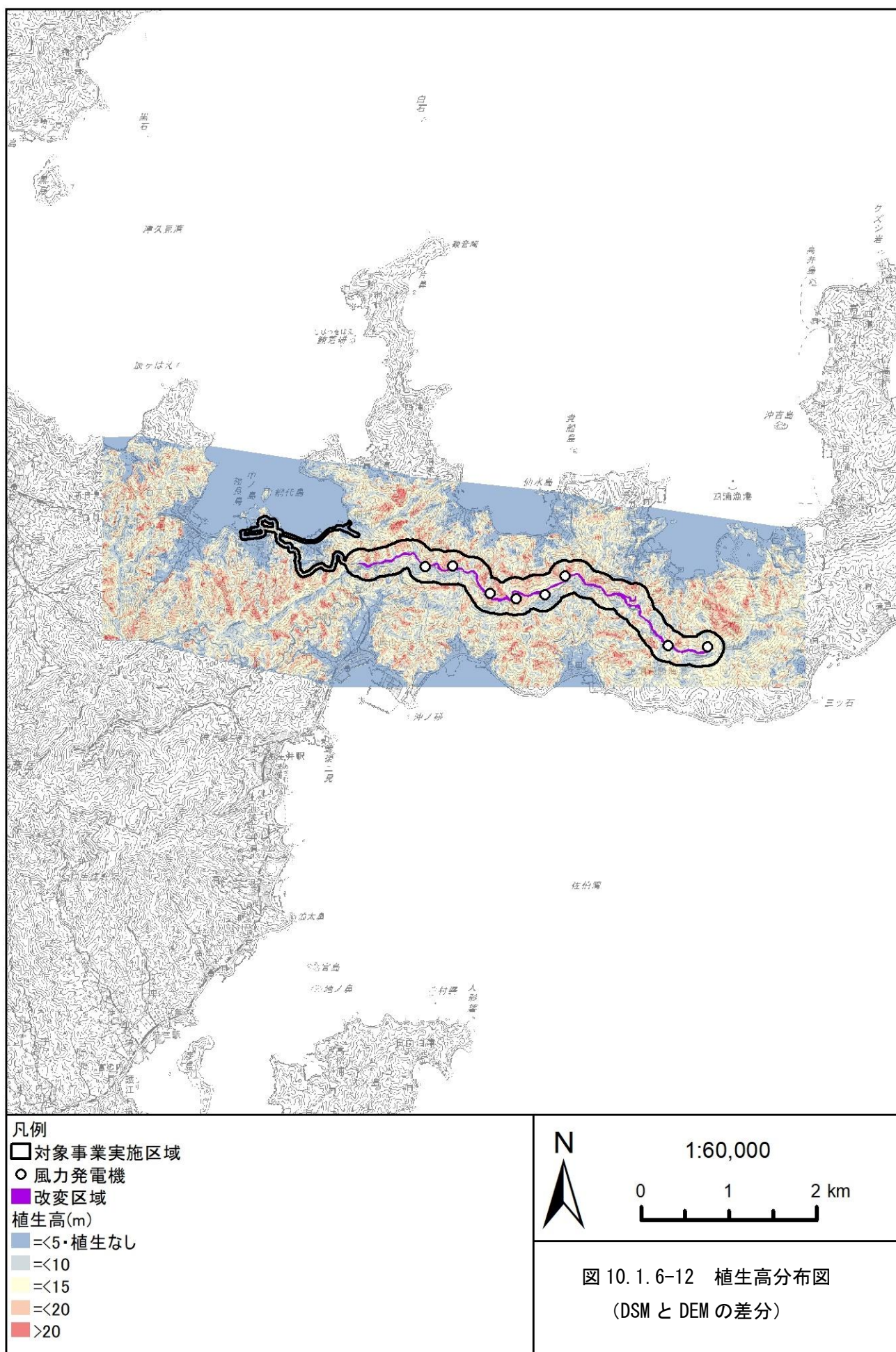
3 3. 鳥類のブレードへの接触に係る影響予測について（阿部顧問）【準備書 p. 1040】

<ご意見>

グラデーションが読み取りにくいので、分かりやすく表示してください。

ご指摘を踏まえ、図 10.1.6-12 を見やすい色合いに修正いたしました。

評価書では、次ページ（本資料 p. 41）に示す図に修正いたします。



3 4. クマタカの営巣、採食適地の解析について（阿部顧問）【準備書 p. 1045】

<ご意見>

営巣、採食適地指数の計算結果（点数）と、現地での営巣地点、採食地点との整合性を示してください。

現地調査においてクマタカの営巣地は2地点確認されましたが、解析範囲（風力発電機設置位置周辺）における営巣地は1地点でした。営巣地地点の営巣適地指数は3点であり、最高点（4点）ではありませんが高点であることから、現地調査の結果と予測の整合性は取れていると考えております。

また、クマタカの狩り行動及び探餌行動は合計20例見られましたが、このうち解析範囲内の行動は7例でした（狩り行動1例、探餌行動6例）。探餌開始地点の得点は、5例が最高点の1点であり、2例が0.1点でした。点数が0.1点と低かった2例について、1例は隣接メッシュが1点であり、もう1例は探餌飛翔行動中の約8割は1点の地点の上空を飛翔していました。そのため、いずれにおいても現地調査の結果と予測との整合性は取れていると考えております。

（二次質問）

お示しいただいた結果は、評価書の中で表などを用いて分かりやすく記載するようにしてください。

（二次回答）

評価書においては表などを用いて分かりやすく記載するようにいたします。

3 5. ハヤブサの営巣適地の解析について（阿部顧問）【準備書 p. 1075】

<ご意見>

ハヤブサの営巣環境は崖地が主ですが、地形ではなく植生区分で抽出したということでしょうか？また、探餌は一般的にはオープンな環境を選択すると言われますが、既往知見とは異なっているようです。

ハヤブサの営巣環境の予測では、地理院地図の地図記号及び空中写真を用いて崖地である場所及び、植生図の「海岸植生」や「マツ群落」等の崖環境に生育する植物がある場所をそれぞれ抽出し用いております。

ご指摘のとおり、一般的にハヤブサは、オープンな環境で狩りを行うことが多いとされ、四浦半島では樹林部と平野または樹林部と採石場の境界付近における狩りや探餌を確認しています。また、ハヤブサは高度が高い場所で探餌を行い、樹林地上空を飛翔している小鳥類を一気

に降下することで狩りをする場合もあり、比較的開けた場所が少ない四浦半島においては、樹林帯での狩り・採餌が多くなったと考えています。

(二次質問)

地図記号や空中写真を用いて抽出した崖地は、営巣適地評価に用いているのでしょうか？準備書の表や記載内容には見当たりません。狩り行動に関しては、現地での確認回数をもとに設定したということでしょうか？水辺は一般的狩りに用いられる環境なので0とするためには理由の記載が必要と思います。またハヤブサは林内では狩りをしないと思いますので、なぜ森林で高くなるのかの理由の記載も必要です。

(二次回答)

地図記号及び空中写真で抽出した「営巣適地（崖地）」は、図 10.1.6-24（準備書 p.1079）に示しており、ピンク色で示す範囲となります。営巣適地の評価は、「ii. 改変による営巣環境の減少・消失」（準備書 p.1104）に記載のとおり、改変区域との比較を行いました。

狩り行動についてはご指摘のとおり、ハヤブサの主な採餌環境は水辺となります。一方で、採餌環境の評価は、現地調査での確認回数を基に設定しており、表 10.1.6-52（準備書 p.1080）に記載のとおり、「水田・水辺等」での狩り・採餌行動が見られなかったことから、採食適地指数の相対的な指標として「0」としました。四浦半島は平地が少なく、全国の平野部で見られるような複数の水田が連続して広がる環境はなく、河川も幅数 m 程度のコンクリート三面張りとなります。このため「水田・水辺等」よりも、海域での採餌行動が多くなった可能性があると考えています。評価書においては「一般的にハヤブサは水辺・水田等の環境で採餌を行うが、四浦半島の地形や人為的な影響により水田・水辺等環境での採餌が行われなかった可能性がある」との理由を記載するようにいたします。

また、ご指摘のとおり、ハヤブサの林内での採餌行動は非常に少ないと考えられます。一方、本現地調査において種が判別したエサはドバトであり、また、既往研究においてもヒヨドリやドバトを多く採餌していることが明らかとなっています。これらの種は、樹林や農耕地、市街地等様々な環境に生息しますが、四浦半島では広い農耕地がなく、市街地では電線や住宅等の構造物・人間活動があることから忌避し、森林（樹林上部）での採餌が多くなった可能性があると考えています。評価書においては「ハヤブサは樹林内で採餌行動を行わないと考えられるが、樹林環境での採餌例数が多かった理由として、四浦半島において、ドバトやヒヨドリなどの種の生息地である農耕地や市街地等の環境は狭くこれらの種を樹林上部で採餌していたため樹林環境での採餌が多くなった可能性が考えられる」との理由を記載するようにいたします。

3 6. 典型性注目種の選定について（阿部顧問）【準備書 p. 1085】

<ご意見>

方法書の審査ではありませんので、あくまで参考コメントですが、本地域では渡り鳥が多く、重要種以外は動物項目で影響評価が行なわれません。典型性での選定は検討されなかったでしょうか？

典型性注目種として、ヒメネズミ、ニホンアナグマ、ヤマガラを検討対象とし、それぞれの種を比較することで選定しました。ご指摘のとおり、本地域では渡り鳥を含め、多くの鳥類種を確認しておりますが、その多くが冬鳥・夏鳥を含む渡り鳥であり、四浦半島での繁殖も確認しておりません。生態系の評価では、一時的な利用を行う渡り鳥種ではなく、地域の生態系として通年その地域に生息する種を対象としております。また、ヤマガラは上位性注目種として検討を行ったハヤブサの餌生物であり、捕食—被食関係にあることからニホンアナグマを対象としました。

37. アナグマの餌量調査について(阿部顧問) 【準備書 p. 1093】

<ご意見>

本地域では糞分析などによる餌種調査は行なわなかったのでしょうか？なお、既往研究の餌内容はDNA分析ではなく、糞分析(目視確認)の結果であるので訂正してください(DNA分析はアナグマの個体識別に用いています)。

既往研究により、一般的なアナグマの餌の種類はおおよそ明らかになっていることから、本検討において、糞分析による餌種類の検討は行いませんでした。

なお、本文で記載いたしました餌内容の結果につきましては間違いでしたので、「糞分析」による結果であることを評価書で訂正いたします。

(二次質問)

ミミズ等が主な餌資源であることなどは共有性もありますが、地域による違いもあります。餌種調査では、当該区域で確認できた餌種が一般的なものと同じかどうかの検証を推奨しています。

(二次回答)

ご助言いただきありがとうございます。本現地調査を実施する際は、過去の既往研究と同一であるとの仮定に基づき整理いたしました。しかし、ご指摘のとおり、地域による違いもあるかと思いますので、地元の有識者に確認、またはアナグマの糞を採取、食性の分析を実施いたします。評価書においては、この結果も含めて記載するようにいたします。

38. バットストライク・バードストライクに関する事後調査について（阿部顧問）【準備書
p. 1233～1244】

＜ご意見＞

一般的な環境影響評価手続きに従っておりますので、準備書に事後調査を稼働後 1 年間で記載するのは仕方がないと思います。ただし、本地域では、稼働期間の 20 年を通じて、鳥類、特に渡り期の猛禽類に対する衝突の可能性が示唆されております。追加の環境保全措置を検討されるのであれば、必要な情報として事業者責任でモニタリングを実施する必要があるのではないかと考えられます。

現地調査において、特に飛翔が多かった場所の風力発電機設置取りやめや風力発電機への目玉模様シールの貼り付け等の対策により鳥類への影響は小さいと考えられますが、ご指摘のとおり、渡り時期における希少猛禽類へのバードストライクが生じる可能性がゼロになるわけではございません。

このため、環境保全措置として、死骸確認調査及び鳥類調査を実施し、それぞれにおいて著しい影響がある場合には専門家等の助言も踏まえ、調査期間の延長も含めた事後調査を実施することを検討いたします。

また、調査期間延長有無にかかわらず、日常的な風力発電機点検において保守点検員が死骸を確認した場合に備え、対応マニュアルを整理し事後調査同様の対応をとれる体制といたします。